

プリンタ ドライバ操作マニュアル

- このたびは本機をお買あげいただきまして、まことにありがとうございました。
- お読みになったあとは本機のそばなど、いつも手元においてお使いください。

目次

はじめに.....	1
1. 概要.....	2
1.1 特長.....	2
1.2 対象プリンタ.....	2
1.3 表記について.....	2
1.4 画面表示について.....	2
1.5 商標および略称について.....	3
1.6 動作条件.....	4
1.6.1 ソフトウェア (OS).....	4
1.6.2 ハードウェア.....	4
1.7 注意事項 (重要).....	4
[ステータスマニター] の設定.....	6
2. インストール手順.....	15
全機種共通.....	15
2.1 前準備.....	18
2.2 Windows へのインストール.....	20
2.3 Windows へのインストール (USB 接続・プラグ&プレイ インストール).....	27
2.4 Windows へのインストール (パラレル接続・プラグ&プレイ インストール).....	28
2.5 削除.....	29
3. 機能.....	32
3.1 用紙設定.....	38
3.1.1 用紙サイズの編集.....	39
3.1.2 プリセット.....	41
3.1.3 高度な設定.....	42
3.2 グラフィックの設定.....	45
3.3 印刷条件の設定.....	46
3.4 オプションの設定.....	49
3.4.1 複写印刷エリア設定 (B-EV4-G のみ設定可能).....	51
3.4.2 リボン設定.....	52
3.5 フォントの設定.....	53
3.5.1 バーコードフォントの編集.....	56
3.6 ツール.....	58
3.7 プリンタフォントの指定.....	67
4. システム構成.....	74
4.1 システム構成例.....	75
5. Standard TCP/IP Port の追加 / 削除.....	78
5.1 追加.....	79
5.2 削除.....	81
6. 付録.....	82
6.1 双方向通信サポートの設定方法.....	82
6.2 LAN 接続方法.....	83

はじめに

このたびは東芝テック製バーコードプリンタをお買いあげいただき、誠にありがとうございます。

本書は、東芝テック製バーコードプリンタ用 TPCL タイプ(*)プリンタドライバ（型番：BDRV-WBX8-Z31）のインストール手順、および機能等の概要を記載した説明書です。

なお、最新版プリンタドライバは、東芝テックバーコードシステムホームページからダウンロードいただけます。

URL アドレス : <http://www.toshibatec.co.jp/support/download/labelprinter/>

* TPCL : TEC Printer Control Language の略

1. 概要

1.1 特長

本製品は Windows 11/Server2016/Server2019/Server2022環境下で東芝テック製バーコードプリンタをご使用いただくための専用プリンタドライバです。

- Windows アプリケーションから印刷が簡単に行えます。
- バーコードプリンタ固有の命令（制御コマンド）を知らなくても、レーザーやインクジェットプリンタなどの O A 用プリンタと同じように使用できます。
- バーコードプリンタ特有のラベルサイズ、透過／反射センサー、カット印刷などの設定をプロパティ画面から簡単に行うことができます。
- バーコードプリンタとは、RS-232C、パラレル、USB、LAN、Bluetooth で接続します。

注意：プリンタの機種により、接続できるインターフェースが異なります。詳しくはご使用になるプリンタの製品マニュアルをご覧ください。IrDA での接続はサポート外となります。

- 文字フォントは、Windows の TrueType フォントはもちろん、バーコードプリンタ内蔵のプリンタフォントもご使用いただけます。
- バーコードおよび2次元コードは、プリンタドライバにて印刷したいコードをフォント登録することにより、アプリケーションから簡単にご利用いただけます。

1.2 対象プリンタ

バーコードプリンタ：

B-858-TS25-R
B-SX8T-TS15-R、B-SA4TM-TS15 / TP-TS15 (*2)、
B-EP2DL-GH20-R / 30-R / 40-R、
B-EV4D-GH17-R / GC17-R / GC27-R、B-EV4T-GH17-R / GC17-R / GC27-R、B-EP4DL-TH30-R / 40-R、
B-EV4D-TH17-R / TC17-R / TC27-R、B-EV4T-TH17-R / TC17-R / TC27-R、
B-EX4T1-TS25-R / TS35-S、B-EX4T3-HS13-R / HS23-S、KP-20-AC-R / BT-R (*3)、B-LV4D-GS15-R、
B-LP2D-G、B-857-CTY-TC35-R、B-EX6T1-TS15-R / TS25-S、BA410T-TS12-S / BA420T-TS12-S、B-FP2D
-GH30 / GH50、BV410D-T、BV410D-G、BV410T-T、BV410T-G、BX410T-T、BX430T-H、BX610T-T、BX
820T-T

*2： B-SA4TM-TS15 / TP-TS15は203dpi のヘッドを装着した場合も含まれます。203dpi の B-SA4TM-TS15 / TP-TS15のみに関連する場合は B-SA4TM-TS15 / TP-TS15(203dpi)と表記します。

*3： KP-20-AC-R / BT-R で印刷する時は、ファームウェアバージョン V002.100以前では使用できません。V002.101または V003.000以降でご使用願います。

1.3 表記について

メニュー名、画面名、アイコン名、ボタン名、タブ名、項目名は [] で囲んで表記します。

例：[OK] をクリックします。

コンピュータの画面上や、プリンタの液晶表示器上に表示される文言は “ ” で囲んで表記します。

例：“CENTRO. MODE” の設定を・・・

参照する章のタイトルは『』で囲んで表記します。

例：『1.1 特長』を参照してください。

1.4 画面表示について

本書で使用しているコンピュータ画面は、操作説明の一例として掲載しています。また、お使いの環境によって表示が異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

1.5 商標および略称について

Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。その他、本書に記載されている会社名、製品名は各社の登録商標または商標になっている場合があります。本文中の各社の登録商標または商標には、TM、®マークは表示していません。

本書に記載されている名称は、下記の略称を使用しています。

- Microsoft® Windows® 11 Home および Microsoft® Windows® 11 Pro および Microsoft® Windows® 11 Enterprise および Microsoft® Windows® 11 Education および Microsoft® Windows® 11は、Windows 11と表記します。
- Microsoft® Windows® Server 2016, Standard Edition および Microsoft® Windows® Server 2016, Datacenter Edition は、Windows Server 2016と表記します。
- Microsoft® Windows® Server 2019, Standard Edition および Microsoft® Windows® Server 2019, Datacenter Edition および Microsoft® Windows® Server 2019, Essentials Edition は、Windows Server 2019と表記します。
- Microsoft® Windows® Server 2022, Standard Edition および Microsoft® Windows® Server 2022, Datacenter Edition は、Windows Server 2022と表記します。

1.6 動作条件

本製品は、以下のシステムおよび環境でご利用になれます。

1.6.1 ソフトウェア（OS）

以下の OS で使用できます。対象言語は日本語です。

- * Windows 11、
Windows Server 2016、Windows Server 2019、Windows Server 2022

1.6.2 ハードウェア

上記の Windows OS が動作する DOS/V 機（IBM AT 互換機）が必須または推奨となります。

詳細は Microsoft の Web サイトを参照してください。

1.7 注意事項（重要）

本製品をご使用いただく前に、次の注意事項を必ずお読みください。

- ◆ 旧バージョンのプリンタドライバがインストールされている環境に、本製品をインストールする場合は、『2.5 削除』に記載されている方法にて、必ず旧バージョンのプリンタドライバを削除してから本製品をインストールして下さい。

旧バージョンのプリンタドライバを削除せずに本製品をインストールした場合、旧プリンタドライバのファイル等が影響して印刷動作が不安定になる場合があります。『2.5 削除』に記載されている方法で削除することにより、システムからプリンタドライバの関連ファイル及び、レジストリ情報が削除されます。

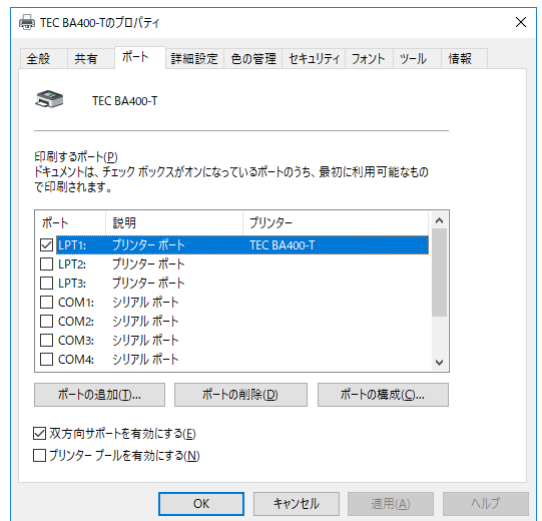
補足：* 本製品は対象プリンタ全てに共通のプログラムを使用します。

- * プリンタの機種が異なっても、バージョンの異なる TPCL プリンタドライバを同一 PC 上で使用することはできません。
- * 新しく追加するプリンタ機種の TPCL プリンタドライバをインストールする場合、他の機種用の異なるバージョンの TPCL プリンタドライバがインストール済みの場合は、他の機種用の TPCL プリンタドライバを削除する必要があります

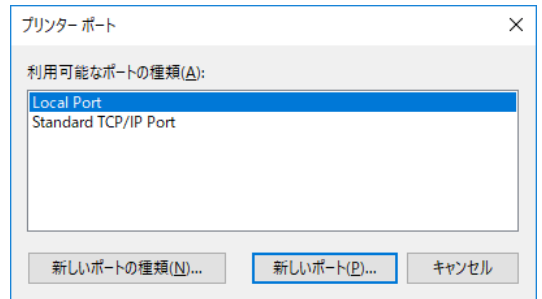
- ◆ プリンタドライバのインストールにて、プリンタの追加ウィザードで「ローカルプリンタまたはネットワークプリンタ」を選択するときは、必ずローカルプリンタを選択してください。
ネットワークプリンタとして使用する場合も、ローカルプリンタとしてインストールした後、印刷先にネットワークパスを指定してご利用ください。また、サーバーPCのプリンタドライバ設定を行えば、プリンタ追加ウィザードでネットワークプリンタを追加できます。詳細は、「共有プリンタにて印刷する場合（2）」をご参照ください。

印刷先にネットワークパスを指定する方法

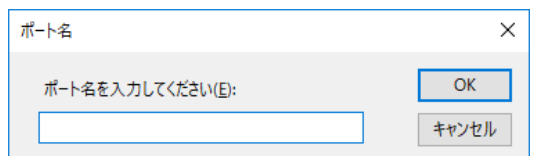
1. プリンタのプロパティから、[ポートの追加] ボタンをクリックします。



2. Local Port を選択し、[新しいポート] をクリックします。



3. ポート名を入力してください。
ポート名 : ¥¥<プリンタサーバー名>¥¥<共有名>
補足 : * プリンタサーバー名は、共有プリンタが接続されているコンピュータのコンピュータ名です。
* 共有名は、共有プリンタのプリンタ名です。



- ◆ 本製品のプロパティにて、[ステータスマニター] の設定を必ず次の表の通りに指定してください。[ステータスマニター] の初期設定は“起動しない”になっています。指定を間違えると正しく印刷できません。

[ステータスマonitor] の設定

[ステータスマonitor] を“起動しない”以外に指定することにより、プリンタの状態をコンピュータで監視することができます。本機能が使用できない場合や必要でない場合は、[ステータスマonitor] を“起動しない”に指定してご使用ください。プリンタドライバの処理が軽減され印刷効率が向上します。

○：全オプション、×：起動しないのみ

条件 プリンタ機種	コンピュータとの接続方法 (I/F)						
	RS-232C [*1] (シリアルケーブル)	パラレル(プリンタケーブル) [*2] IEEE1284 規格準拠(互換/ECPモード)	USB	LAN/WLAN 10BASE-T/100BASE-TX	Bluetooth		
	—	右記以外	CENTRO.MODE=ECP PLUG&PLAY=ON	Ver1.1/ 2.0	Standard TCP/IP Port(RAW)	その他の Port	—
KP-20-AC-R/BT-R	非対応	非対応	非対応	×	×	×	×
B-EX4T1-TS25-R/T S35-S B-EX4T3-HS13-R/H S23-S B-EX6T1-TS15-R/T S25-S	○	×	非対応	○	○	×	×
B-SX8T-TS15-R	○	×	非対応	○	○	×	×
B-EV4D-GH/GC17-R /GC27-R B-EV4T-GH/GC17-R /GC27-R	×	×	非対応	×	×	×	×
B-EV4D-TH/TC17-R /TC27-R B-EV4T-TH/TC17-R /TC27-R	×	×	非対応	×	×	×	×
B-EP2DL-GH 20/30/40-R	○	非対応	非対応	○	○	×	○
B-EP4DL-TH30/40-R	非対応	非対応	非対応	○	○	×	○
B-858-TS25-R B-857-CTY-TC35-R	○	×	非対応	○	○	×	×
B-SA4TM/TP-TS15	○	×	非対応	○	○	×	×
B-LV4D-GS15-R	×	×	×	○	○	×	○
B-LP2D-GS30-R	非対応	非対応	非対応	○	非対応	非対応	○
BA410T-TS12-S BA420T-TS12-S	○	非対応	非対応	○	○	○	○
B-FP2D-GH30/GH50	非対応	非対応	非対応	○	○	○	○
BV410D-T BV410D-G	○	非対応	非対応	○	○	○	○
BX410T-T BX430T-H	×	非対応	非対応	×	×	×	×
BX610T-T	×	非対応	非対応	×	×	×	×
BX820T-T	×	非対応	非対応	×	×	×	×

*1： RS-232C (シリアルケーブル) を使用して接続した場合、印刷までに時間がかかります。他の接続方法を推奨します。

*2： プリンタの設定において、“CENTRO. MODE” の設定を「ECP」に指定した場合は、必ず“PLUG & PLAY”の設定を「ON」に指定してください。また、“CENTRO. MODE” の設定を「SPP」に指定した場合は、必ず“PLUG & PLAY”の設定を「OFF」に指定してください。

(プリンタ出荷時は、“CENTRO. MODE” の設定は「SPP」、 “PLUG & PLAY” の設定は「OFF」になっています。双方向印刷を行う場合は、“CENTRO. MODE” の設定を“ECP”、“PLUG & PLAY” の設定を“ON”に変更してください。)

プリンタの設定方法については、『6.2 プリンタのパラメータ設定方法』を参照してください。

➤ 本機能が使用できない場合や必要でない場合に [ステータスマonitor] を起動したまま印刷した場合は、印刷ジョブ

を削除し、[ステータスマニター] を“起動しない”に切り換えてください。

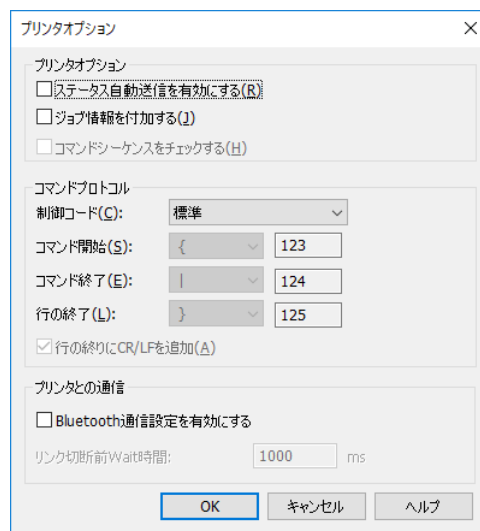
- ステータスマニターを誤って起動した場合は、[ステータスマニター] を“起動しない”に切り換えてください。
- ステータスマニターでプリンタの状態を監視する場合は、1台のコンピュータに複数のプリンタドライバを同じ出力ポートに指定しないでください。同じ出力ポートを指定する場合には、[ステータスマニター] を“起動しない”にしてご使用ください。
また、複数のコンピュータで同じプリンタに接続する場合、共有プリンタを指定するか、[ステータスマニター] を“起動しない”にしてご使用ください。

- ◆ B-EV4D-GH/GC17-R/GC27-R , B-EV4T-GH/GC17-R/C27-R , B-EV4D-TH/TC17-R/TC27-R , B-EV4T-TH/TC17-R/TC27-R をお使いの場合は、「6.1 双方向通信サポートの設定方法」をご参照頂き、[双方向サポートを有効にする] のチェックを外してください。また、ネットワークで御使用になる場合は、プロトコルに“LPR”を選択した上、「3.6 ツール」－ [設定] － [プリンタオプション] をご参照頂き、[ステータス自動送信を有効にする] のチェックを外してください。

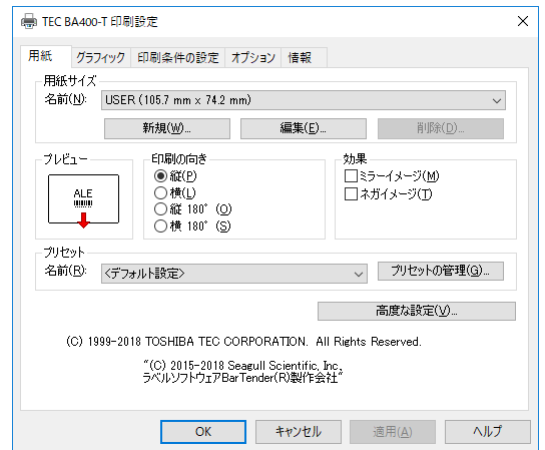
- ◆ [ツール] － [設定] － [プリンタオプション] － [プリンタオプション] － [ステータス自動送信を有効にする] のデフォルトは無効に設定されています。本製品はこのステータスを使用していません。通常はチェックを外してください。

- ◆ バーコードフォントのデータとして、漢字データを使用する場合は、[ツール] － [設定] － [プリンタオプション] － [コマンドプロトコル] － [制御コード] を [ESC / LF / NUL] に設定してください。

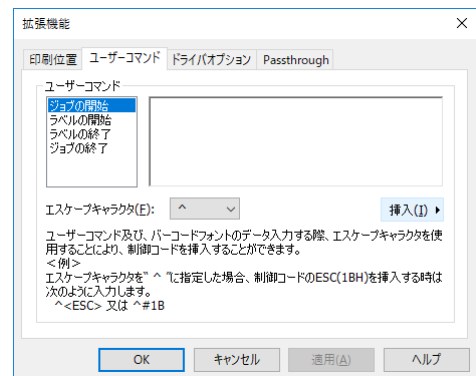
- 漢字データが指定できるバーコードフォントのコード種類 PDF417、MicroPDF417、Data Matrix、Maxicode、QR Code、Aztec
- 本製品をインストールしたときは、[制御コード] が [標準] に設定されています。[標準] のままバーコードデータとして漢字コードを印刷すると、プリンタはエラーとなります。



- ◆ 本製品インストール後のエスケープキャラクタのデフォルト設定は、caret [^] (5EH)に設定されます。QR-Code 等のバーコードフォントを使用する場合、バーコードデータとしてエスケープキャラクタを指定するときは、エスケープキャラクタを2つ続けて指定してください。例えば、エスケープキャラクタとして、デフォルトの caret [^] をそのまま使用する場合、バーコードデータとして [^] を指定するときは [^][^] と指定してください。



- ◆ [用紙] タブの“高度な設定” ボタンをクリックし、エスケープキャラクタを指定します。エスケープキャラクタは、バーコードデータとしてバイナリデータを指定する場合に使用します。



- ◆ B-EP2DL、B-EP4DL、B-LP2D、B-FP2D-G を本製品でご利用いただく場合、プリンタの印刷コマンドモードを“TPCL”、“TPCL1”に指定してください。モード設定は設定ツール、または、キー操作で行なえます。キー操作による設定方法は、プリンタのキー操作マニュアルをご覧ください。
- ◆ デバイスフォントを使用した場合には、実際の印刷結果が、印刷プレビューと異なります。印刷レイアウト作成時には実際に印刷を行い各文字列フィールドの印字位置をご確認ください。
- ◆ RFID フォントはサポート外の機能となっております。

- ◆ 本製品の用紙サイズ A4、A5、A6は DEVMODE の定義名(DMPAPER_A4、DMPAPER_A5、DMPAPER_A6)で定義していません。本製品の用紙サイズ A4、A5、A6は独自の用紙 ID になります。プリンタドライバに登録された固定の用紙の用紙 ID を下表に示します。新規で用紙を登録した場合、用紙 ID は追加した順番に 257から割り振られます。用紙 ID は用紙サイズの編集で変更できます。
DEVMODE 構造体の dmPaperSize による用紙サイズの指定や確認はこの用紙 ID を使用してください。

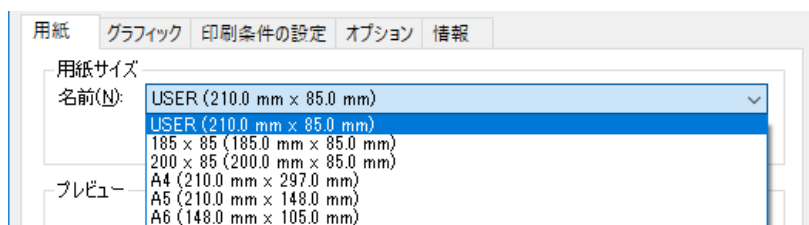
用紙名	用紙 ID	
	現	旧
USER	256	256
2 x 4	32000	257
4 x 4	32001	258
4 x 6	32002	259
200 x 85	32004	260
A4	32005	261
A5	32006	262
A6	32007	263
JAMA L	32010	267
JAMA M	32011	268
JAMA S	32012	269
Form-F	32009	270
Form-A	32008	271
185 x 85	32003	272
6 x 4	32013	—
2 x 2	32014	—

注意：固定の用紙の用紙 ID を7.2 M-2で一新しました。
そのため、Excel や Access 等の用紙を用紙 ID で管理するアプリケーションで、バージョンアップ等により正常なサイズで印刷できない場合があります。

バージョンアップは以下の方法で行ってください。

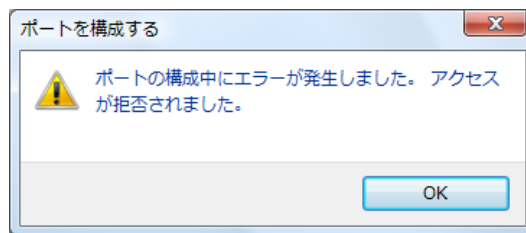
- ①エクスポート／インポート機能で移行する
- ②新規に用紙を追加し、用紙 ID を前の番号に変更する
- ③固定の用紙を選択した状態で新規に用紙を追加し、用紙 ID を左表の旧の番号に変更する

用紙リストは、用紙 ID に関係なく、用紙名の先頭文字により昇順（記号→数値→アルファベット→カナ→漢字）でソートされます。

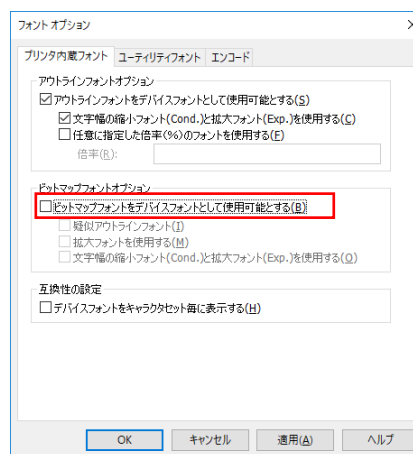


- ◆ 前のバージョンのエクスポートファイルをインポートする場合、プリセットの用紙の設定が引継がれないことが有ります。プリセットをインポートする場合、インポートされたプリセットの用紙の設定を確認してください。
- ◆ Access2007をご利用いただく場合、用紙の名前が正しく表示されない箇所が有ります。用紙を設定する場合、ページ設定ダイアログの用紙サイズで設定を行ってください。
- ◆ BA410T シリーズ / BA420T シリーズの場合、転写発行時に50.8mm/秒を指定した場合には76.2mm/秒で動作します。
- ◆ プリンタドライバの各種設定には、ご使用のプリンタに含まれていない機能も表示される場合があります。それらの機能についてはサポート対象外となります。

印刷するポートの構成を変更する際、右の画面が表示されることがあります。その場合、管理者権限で変更を行ってください。

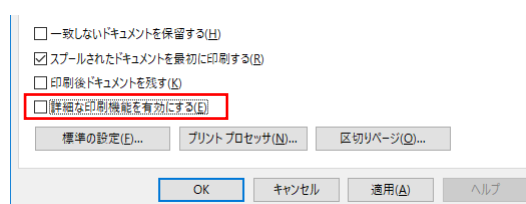


- ◆ Access ではビットマップフォントを使用することができません。
Access をご利用いただく場合、[フォントオプション]の[ビットマップをデバイスフォントとして使用可能にする]のチェックを外してください。



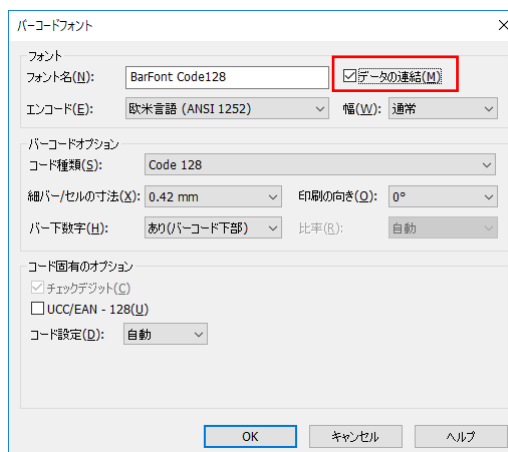
- ◆ 本製品がインストールされた環境に、Seagull Scientific 社が作成した本製品以外のプリンタドライバはインストールしないでください。
インストールしてしまった場合、DriverWizard でアンインストールを行ってから、本製品のみをインストールしてください。

- ◆ プリントシステムⅢや Active Reports で作成したアプリケーションから印刷を行う場合、[詳細な印刷機能を有効にする]のチェックを外してください。チェックありの場合、印刷枚数指定が正しく反映しない場合があります。プリンタドライバをインストール後のデフォルト設定は有効になっています。チェックを外すときは、必ずプリントシステムⅢや Active Reports を終了させてから設定を変更してください。

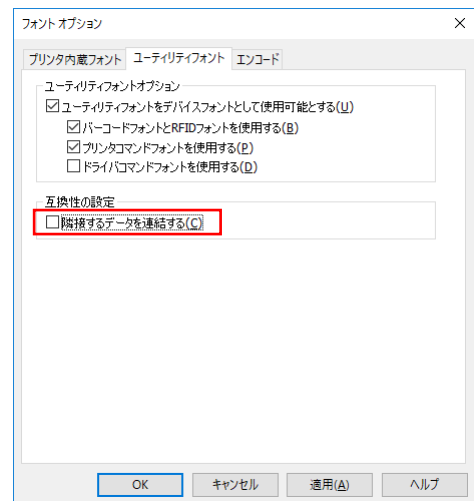


- ◆ [詳細な印刷機能を有効にする]のチェックが OFF の場合、[すぐに印刷データをプリンタに送る(I)]を設定していても [全ページ分のデータをスプールしてから、印刷データをプリンターに送る(T)]と同じ動作になります。

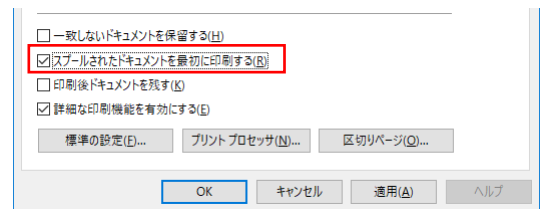
- ◆ 桁数が多いデータをバーコードで印字する場合、ページ内に収まらないデータは無効になります。
桁数が多いデータを使用する場合、各バーコードの設定で [データの連結] のチェックを付けてください。
[データの連結] のチェックを付けた場合、印字するバーコードごとにバーコードフォントを作成してください。



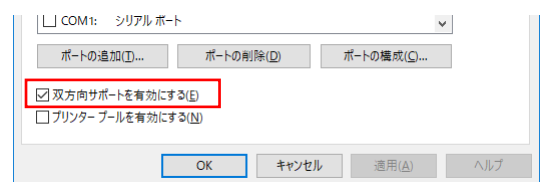
- ◆ 先頭または終端にスペースが入ったデータをバーコードフォントで印字した場合、先頭と終端のスペースがデータから削除されます。
また、同じバーコードフォントに指定され、Y座標の位置が同じデータは全て連結されます。
回避するために「[フォントオプション]」の「隣接するデータを連結する」のチェックを外してください。



- ◆ 複数のジョブを連続で印刷する場合、プリンタキューに表示される順番通りに印刷されないことがあります。回避するために「スプールされたドキュメントを最初に印刷する」のチェックを付けてください。



- ◆ 「双方向サポートを有効にする」のチェックを外した状態でプリンタ名を変更すると設定情報が変更できない場合があります。その場合、「双方向サポートを有効にする」のチェックを付けて「OK」で画面を閉じてください。再度、「双方向サポートを有効にする」のチェックを外して元に戻してください。
プリンタ名を変更後、この設定を一時的に有効にすることで設定情報の保存が可能になります。



- ◆ WORD2013/2016でプリンタフォントを使用することはできません。
Windowsにインストールされている標準フォントを使用してください。

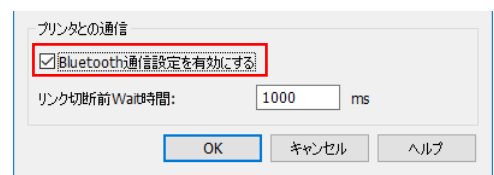
◆ Bluetooth 通信を行う場合

<B-EP2DL/B-EP4DL シリーズ、B-LV4D シリーズ B-LP2D シリーズ、BA410T/ BA420T シリーズ、B-FP 2D シリーズ、BV410シリーズの場合>

[ツール] - [設定] - [プリンタオプション] - [プリンタとの通信] - [Bluetooth 通信設定を有効にする] のチェックを有効にしてください。

上記設定に加えて、「ステータスマニター」を“ジョブ処理中のみ起動する”、“印刷中のみ起動する”または“常に起動する”に設定してください。

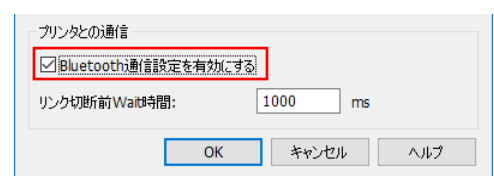
※本機能を使用する場合、[ポート]タブ「双方向サポートを有効にする」のチェックを付けてください。



<BX410T-T, BX430T-H, BX610T-T, BX820T-T の場合>

[ツール] - [設定] - [プリンタオプション] - [プリンタとの通信] - [Bluetooth 通信設定を有効にする] のチェックを有効にしてください。

※プリンタの受信バッファがフルになるような送信は行わないでください。



- ◆ B-LP2D を B-SP 互換モードで使用される場合は、B-SP2D のドライバを使用してください。B-SP 互換モードの場合、B-LP2D のドライバでは戻出しでの印刷はできません。

接続するプリンタとドライバの機種および B-SP 互換モードの設定により、頭出しと戻出しが下表のように変わりますのでご注意ください。

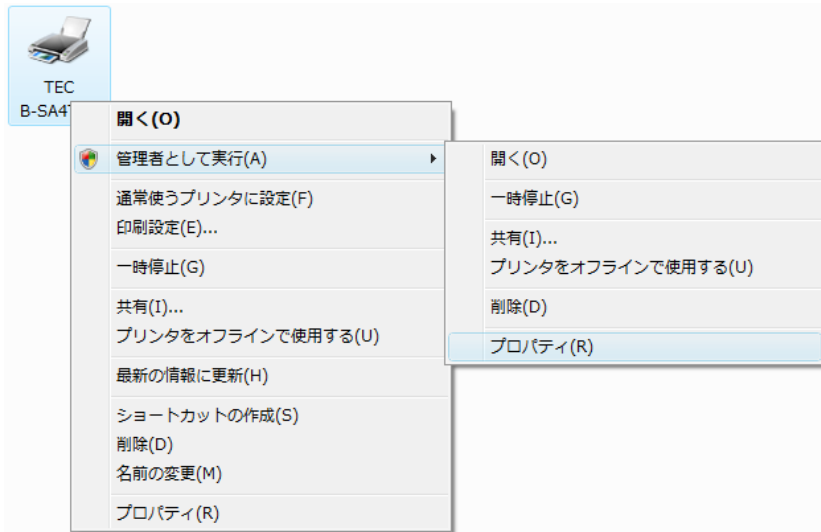
プリンタ	B-SPモード設定	ドライバ出力先プリンタ	プリンタドライバ		プリンタ	⇒	印刷ラベルの見た目
			画像回転	タグローテーション	プリンタによる補正後のタグローテーション		
B-SP2D	—	B-SP2D	180° 回転	頭出し指定	頭出し	⇒	戻出し
	—	B-LP2D	回転なし	戻出し指定	頭出し	⇒	頭出し
B-LP2D	OFF	B-SP2D	180° 回転	頭出し指定	頭出し	⇒	戻出し
		B-LP2D	回転なし	戻出し指定	戻出し	⇒	戻出し
	ON	B-SP2D	180° 回転	頭出し指定	頭出し	⇒	戻出し
		B-LP2D	回転なし	戻出し指定	頭出し	⇒	頭出し

- ◆ 「標準 TCP/IP ポートモニターの構成」ダイアログで、プロトコルを Raw から LPR または LPR から Raw に変更時、設定変更が反映されないことがあります。プロトコルを変更する場合は、一度「ポートの削除」を実行してから、再度「ポートの追加」を行ってください。
- ◆ アプリケーションからプリンタドライバのポートを使用して直接プリンタコマンドをプリンタへ送信する場合は「双方向サポートを有効にする」のチェックは外してください。
- ◆ USB 接続で[プリンターのプロパティ]が開けない場合、[Driver Wizard]でプリンタを全て削除、コンピュータの再起動後、再度プリンタドライバをインストールした後、プリンタを追加してください。

管理者権限でプロパティを開く方法

環境によっては一部の設定変更に管理者権限が必要になります。

プリンタのアイコンで右クリックをし、下記の通りメニューを開き、プロパティをクリックしてください。



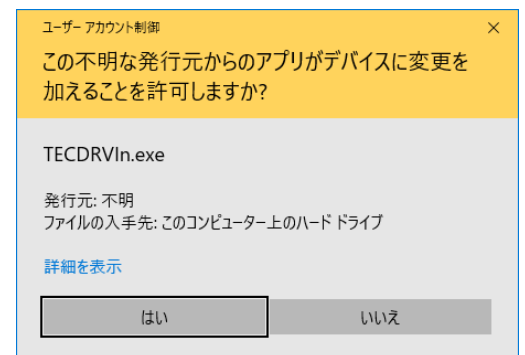
注意：「ユーザーアカウント制御」というタイトルの画面が表示されることがありますが、その場合は「許可」をクリックします。

□ 再セットアップをする場合

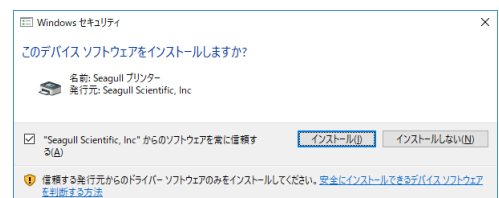
プリンタドライバの削除を行った後、実行してください。また、インストールが手順通り行えない場合も実行してください。

1. [スタート] - [すべてのプログラム] - [TOSHIBA TEC] - [TPCL Printer Driver] の [TECDRVIN] をクリックしてください。

注意：管理者権限をもつユーザーでログオンしてください。
「ユーザーアカウント制御」というタイトルの画面が表示されることがありますが、その場合は「許可」をクリックします。



2. 右の画面が表示されますが、その場合は「インストール」をクリックします。

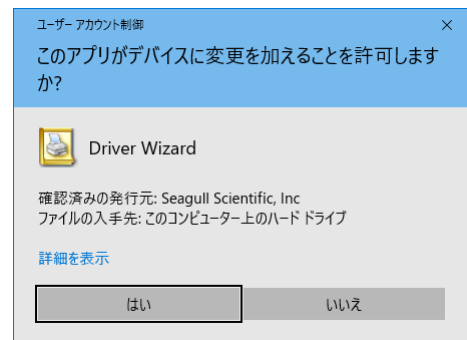


□ プラグアンドプレイのインストールが失敗する場合

プラグアンドプレイのインストールで不明なデバイスが作成された場合に実行してください。

1. [スタート] - [すべてのプログラム] - [TOSHIBA T
EC] - [TPCL Printer Driver] の [PnP Recovery] を
クリックしてください。

注意：管理者権限をもつユーザーでログオンしてください。「ユ
ーザーアカウント制御」というタイトルの画面が表示さ
れることがありますが、その場合は [許可] をクリック
します。



2. 右の画面が表示されますが、その場合は [インストール]
をクリックします。



2. インストール手順

インストール手順

ご使用のプリンタの機種とコンピュータとの接続方法により、インストール手順が異なります。該当する項目の手順に従って、プリンタドライバをインストールしてください。

なお、旧バージョンのプリンタドライバが既にインストール済みの場合は、必ずアンインストールを行ってから、コンピュータを再起動後、プリンタドライバをインストールしてください。→『2.5 削除』を参照してください。

全機種共通

プリンタドライバのインストール前に、『2.1 前準備』の項目を行ってください。

プリンタドライバのインストール方法

○：接続可能 ×：接続不可

プリンタの機種	コンピュータとの接続方法			
	プラグ&プレイを使用しない			
	RS-232C	LAN	パラレル	Bluetooth
KP-20-AC-R/BT-R	×	○	×	×
B-EX4T1-TS25-R/TS35-S B-EX4T3-HS13-R/HS23-S B-EX6T1-TS15-R/TS25-S	○	○	○	×
B-SX8T-TS15-R	○	○	○	×
B-EV4D-GH/GC17-R/GC27-R B-EV4T-GH/GC17-R/GC27-R	○	○	○	×
B-EV4D-TH/TC17-R/TC27-R B-EV4T-TH/TC17-R/TC27-R	○	○	○	×
B-EP2DL-GH20/30/40-R	○	○	×	○
B-EP4DL-TH30/40-R	×	○	×	○
B-858-TS25-R	○	○	○	×
B-SA4TM/TP-TS15	○	○	○	×
B-LV4D-GS15-R	×	○	×	○
B-LP2D-GS30-R	×	×	×	○
BA410T-TS12-S BA420T-TS12-S	○	○	×	○
B-FP2D-GH30 / GH50	×	○	×	○
BV410D-T BV410D-G	○	○	○	○
BX410T-T BX430T-H	○	○	×	○
BX610T-T	○	○	×	○
BX820T-T	○	○	×	○

プリンタの機種	コンピュータとの接続方法	
	プラグ&プレイ	
	USB	パラレル
KP-20-AC-R/BT-R	○	×
B-EX4T1-TS25-R/TS35-S B-EX4T3-HS13-R/HS23-S B-EX6T1-TS15-R/TS25-S	○	○
B-SX8T-TS15-R	○	○
B-EV4D-GH/GC17-R/GC27-R B-EV4T-GH/GC17-R/GC27-R	○	×
B-EV4D-TH/TC17-R/TC27-R B-EV4T-TH/TC17-R/TC27-R	○	×
B-EP2DL-GH20/30/40-R	○	×
B-EP4DL-TH30/40-R	○	×
B-858-TS25-R	○	○
B-SA4TM/TP-TS15	○	○
B-LV4D-GS15-R	○	×
B-LP2D-GS30-R	○	×
BA410T-TS12-S BA420T-TS12-S	○	×
B-FP2D-GH30 / GH50	○	×
BV410D-T BV410D-G	○	×
BX410T-T BX430T-H	○	×
BX610T-T	○	×
BX820T-T	○	×

注意：本表はプリンタがサポートしているインターフェースの種類を表すものではありません。
 実際のコンピュータとの接続方法から、接続可能（○）を確認後、次ページの『OS 別インストール方法』を
 参照いただき、該当するインストール方法に従い、プリンタドライバのインストールを行ってください。

OS 別インストール方法

OS					コンピュータとの接続方法	
	プラグ&プレイを使用しない				プラグ&プレイ	
	RS-232C	LAN	パラレル	Bluetooth	USB	パラレル (*1)
Windows 11	2.2 Windows へのインストール				2.3 Windows へのインストール (USB 接続・プラグ&プレイ インストール)	2.4 Windows へのインストール (パラレル接続・プラグ&プレイ インストール)
Windows Server 2016						
Windows Server 2019						
Windows Server 2022						

*1：プラグ&プレイで、パラレル接続の場合には、プリンタ側の設定が必要です。パラレル接続時のプラグ&プレイの初期値は無効に設定されています。

共有プリンタのインストールは、“2.2 Windows へのインストール”の「共有プリンタにて印刷する場合」に記載された手順で行います。プラグ&プレイを使用する場合、上記の手順を参照してください。

パラレル接続時（プラグ&プレイを使用して本製品をインストールする場合）のプリンタ側の設定

- ◆ <B-SA4TM / TP-TS15、B-858-TS25-R、B-SX8T-TS15-R、B-EX4T1-TS25-R / TS35-S、B-EX4T3-HS13-R / HS23-S、B-857-CTY-TC35-R、B-EX6T1-TS15-R / TS25-S の場合>

プリンタのパラメータ設定にて“<2>PARAMETER SET”の“PLUG & PLAY”を“ON”に設定してください。

パラレルインターフェース接続にて次の機能が有効になります。

- プラグ&プレイ機能によるプリンタドライバのインストール。

プリンタ出荷時は、“PLUG & PLAY”の設定は「OFF」になっています。また、プリンタの状態監視機能は使用できませんので、本製品のプロパティにて、[双方向通信サポート]を無効に指定してください。

2.1 前準備

注意：既に別バージョンがインストール済み場合は、アンインストールしてから前準備を実施してください。

1. 下記弊社ホームページからプリンタドライバのインストール用ファイル「TPCL****M*J.exe」をローカルディスクにダウンロードします。

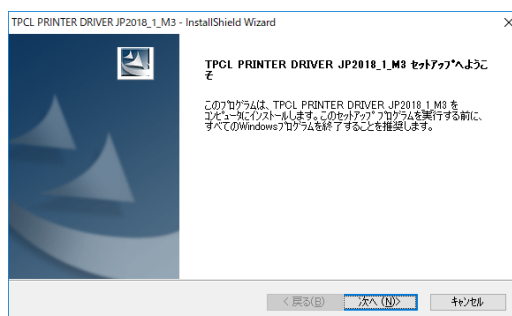
➤ URL アドレス：<http://www.toshibatec.co.jp/>

注意：ホームページ上に記載されておりますソフトウェア使用許諾契約に同意されない場合は、ダウンロードできませんのでご了承ください。

インストール用ファイル名の * 部分はバージョンによって変わります。

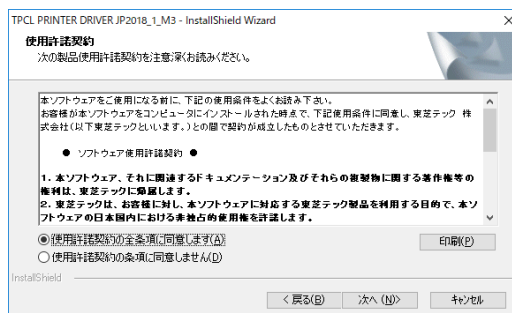
2. ダウンロードした「TPCL****M*J.exe」をダブルクリックすると、“TPCL PRINTER DRIVER – Installshield Wizard”を起動しますので、[次へ]をクリックします。

注意：管理者権限をもつユーザーでログオンしてください。「ユーザーアカウント制御」というタイトルの画面が表示されることがありますが、その場合は[許可]をクリックします。



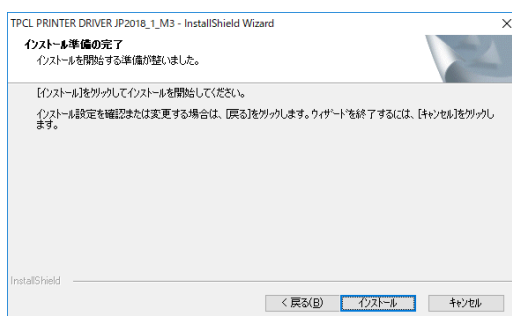
3. 「ソフトウェア使用許諾契約」が表示されますので、“使用許諾契約書の全項目に同意します”を選択し、[次へ]をクリックします。

注意：契約に同意いただけない場合は、本製品はご利用できません。

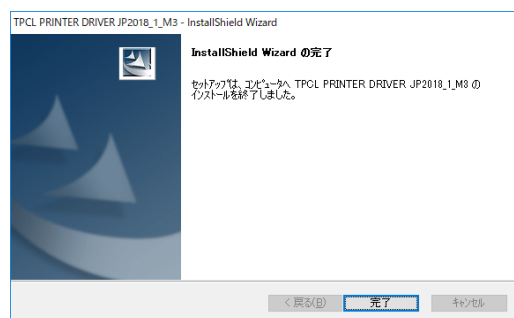


4. [インストール] をクリックすると、プリンタドライバのインストール用ファイルを“C:\%TEC_DRV”に作成します。

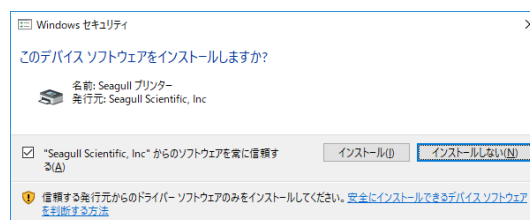
注意：フォルダ名は“C:\%TEC_DRV”で固定されています。変更できませんのでご注意ください。



5. インストールが終了したら [完了] をクリックします。



注意：右の画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。



2.2 Windows へのインストール

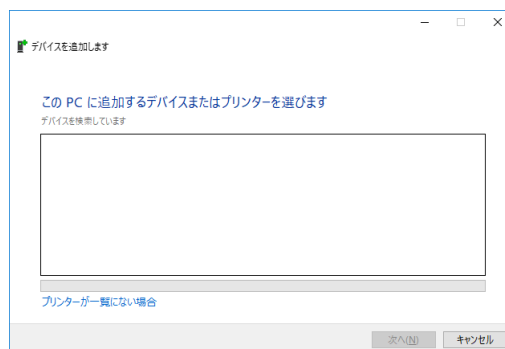
注意：手順通りインストールができない場合、『再セットアップをする場合』を行ってください。

1. コンピュータの電源を入れてください。
注意：管理者権限をもつユーザーでログオンしてください。
2. [スタート] – [コントロールパネル] – [ハードウェアとサウンド] – [デバイスとプリンター] を選択し、[デバイスとプリンター] フォルダを表示します。

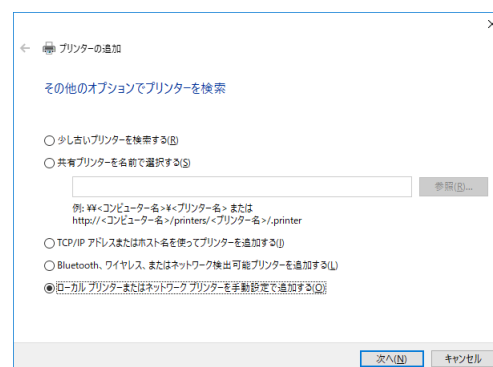
補足：[検索の開始] で“プリンタ”と入力すると、プログラムで [プリンタ] が表示されます。

3. [プリンターの追加] をクリックし、プリンタの追加を開始します。

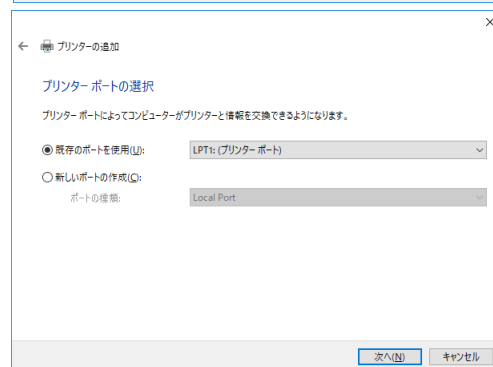
4. “プリンターが一覧にない場合” を選択します。



5. “ローカルプリンターまたはネットワークプリンターを手動設定で追加する(O)” を選択します。



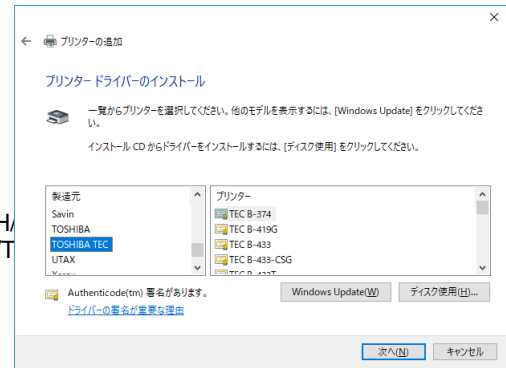
6. プリンタに使用するポートを選択し、[次へ(N)] をクリックします。



7. 製造元とプリンタの一覧が表示されたら、製造元のリストで“TOSHIBA TEC” を選択します。

8. インストール可能なプリンタの一覧が表示されます。

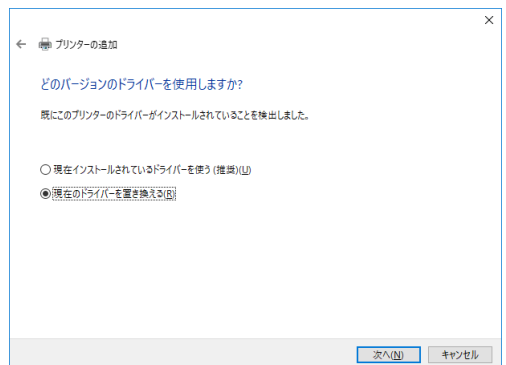
- * TEC B-SA4T-JP: B-SA4TM/TP-TS15
- * TEC B-SA4G-JP: B-SA4TM/TP-TS15(203dpi)
- * TEC B-858-R: B-858-TS25-R, B-857-CTY-TC35-R
- * TEC B-EP2DL-G-JP: B-EP2DL-GH20/30/40-R
- * TEC B-EP4DL-T-JP: B-EP4DL-TH30/40-R
- * TEC B-EV4-G: B-EV4D-GH/GC17-R/GC27-R, B-EV4T-GH/
- * TEC B-EV4-T: B-EV4D-TH/TC17-R/TC27-R, B-EV4T-TH/T
- * TEC B-SX8T-JP-R: B-SX8T-TS15-R
- * TEC B-EX4T1-T: B-EX4T1-TS25-R/TS35-S
- * TEC B-EX4T3-H: B-EX4T3-HS13-R/HS23-S
- * TEC KP-20: KP-20-AC-R/BT-R
- * TEC B-LP2D-G: B-LP2D-GS30-R
- * TEC B-LV4-G: B-LV4D-GS15-R
- * TEC B-LV4-T: B-LV4D-GS15-R(300dpi)
- * TEC B-EX6T1-T: B-EX6T1-TS15-R/TS25-S
- * TEC B-EX6T1-G: B-EX6T1-TS15-R(203dpi)
- * TEC BA400-T: BA410T-TS12-S/BA420T-TS12-S
- * TEC BA400-G: BA410T-GS12-S/BA420T-GS12-S
- * TEC B-FP2D-G: B-FP2D-GH30/B-FP2D-GH50
- * TEC BV400-T: BV410D-T/BV410T-T
- * TEC BV400-G: BV410D-G/BV410T-G
- * TEC BX410-T: BX410T-T
- * TEC BX430-H: BX430T-H
- * TEC BX610-T: BX610T-T
- * TEC BX820-T: BX820T-T



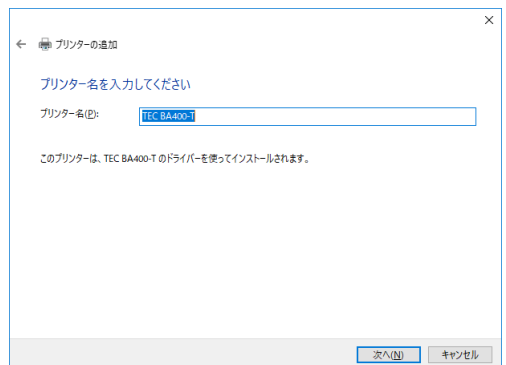
インストールする機種を選択し、[次へ(N)] をクリックします。

9. “現在のドライバーを置き換える(R)” を選択し、[次へ(N)] をクリックします。

補足：初めてインストールする場合、この操作は省略されます。

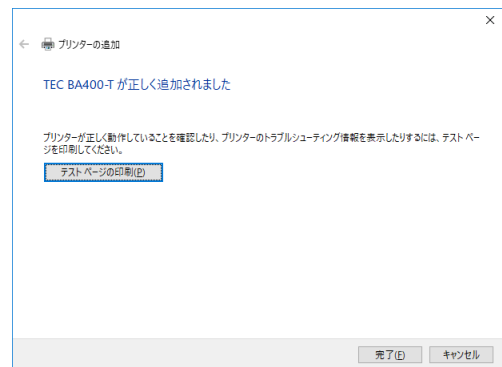


10. プリンタ名を入力し、[次へ(N)] をクリックします。



11. インストールが開始します。

12. インストールが終了すると、プリンタの追加の完了画面が表示されます。このとき、[プリンタ] フォルダに新しくアイコンが追加されます。[完了(F)] をクリックします。テストページの印刷をする場合、[テストページの印刷(P)] をクリックしてください。



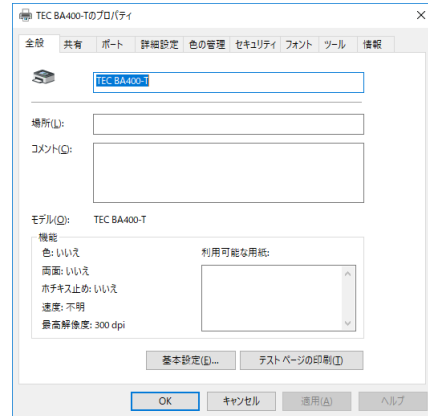
■ 共有プリンタにて印刷する場合(1)

1. 前述の手順1~12を行います。

2. 共有先の PC に対するアクセス権限をもつユーザーでログオンしてください。

注意：本作業には管理者権限が必要です。管理者権限がない場合、一時的に管理者権限を付与してください。

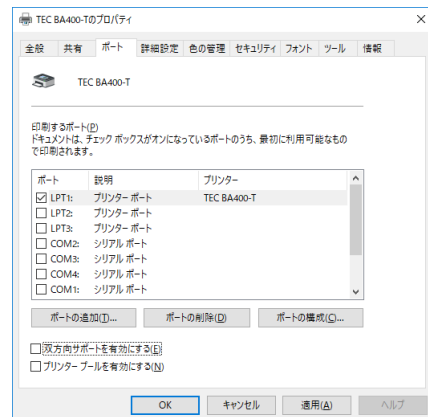
3. 新しく追加されたプリンタアイコンを右クリックし、[プロパティ] をクリックしてプロパティを開きます。



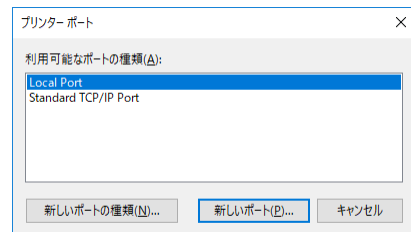
4. [ポート] を選択し、[双方向サポートを有効にする(E)] のチェックを外します。[ポートの追加(T)] をクリックします。

注意：本製品のインストール後は、必ず [双方向通信サポート] を無効にしてください。

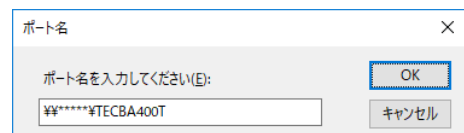
指定方法については、『6.1 双方向通信サポートの設定方法』を参照してください。



5. “Local Port” を選択し、[新しいポート(P)] をクリックします。



6. 共有設定したプリンタのネットワークパス（例：¥¥*****¥T ECB-SA4）を入力し、[OK] をクリックします。



7. ポートの設定が終了したら、[OK] をクリックしてプロパティを閉じます。

注意：本製品のインストール後は、必ず [双方向通信サポート] を無効にしてください。

指定方法については、『6.1 双方向通信サポートの設定方法』を参照してください。

プリンタドライバの設定は共有先の PC 毎に保存されるので、ポートの設定が終了した後にプリンタドライバの設定を行なってください。

■ 共有プリンタにて印刷する場合(2)

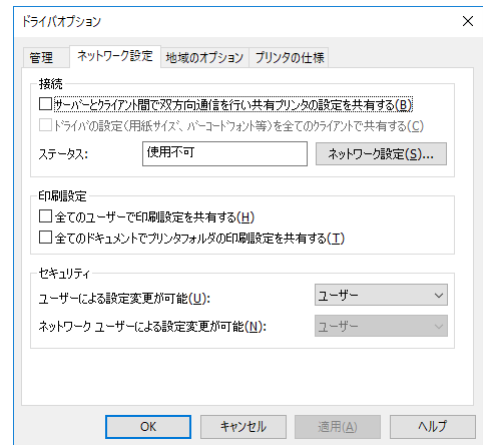
注意：本製品と異なるバージョンのプリンタドライバが既にインストールされていた場合、『プリンタドライバの削除』を行った後、インストールをしてください。

サーバーPC とクライアント PC は同じバージョンのプリンタドライバを使用してください。

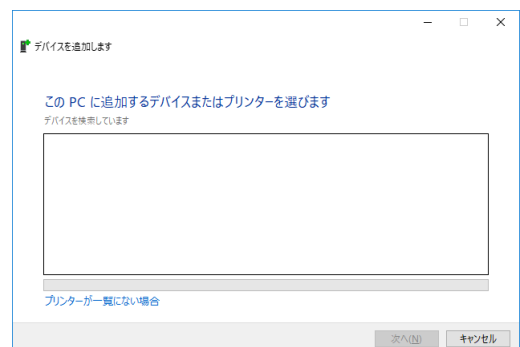
◇インストールを行う前に

クライアント PC でのインストール／アンインストールは、ユーザーアカウントごとに行ってください。

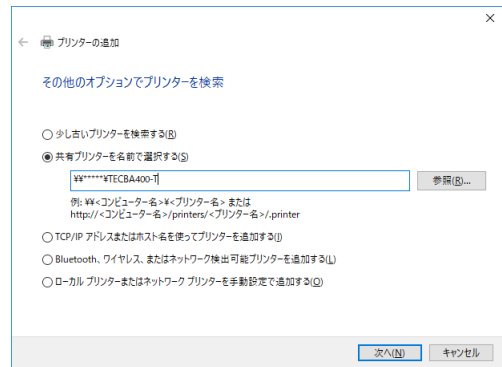
サーバーPC の共有するプリンタドライバで、ネットワーク設定の接続のチェックを右の画面の通りに設定してください。



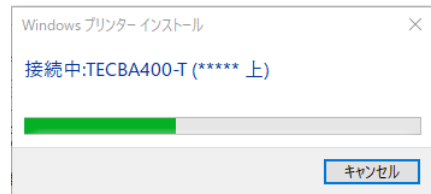
1. コンピュータの電源を入れてください。
注意：管理者権限をもつユーザーでログオンしてください。
2. 『2.1 前準備』の項目を行います。
3. 共有先の PC に対するアクセス権限をもつユーザーでログオンしてください。
4. [スタート] - [コントロールパネル] - [ハードウェアとサウンド] - [デバイスとプリンター] を選択し、[プリンタ] フォルダを表示します。
補足：[検索の開始] で“プリンタ”と入力すると、プログラムで [プリンタ] が表示されます。
5. [プリンターの追加] をクリックし、プリンタの追加を開始します。
6. “プリンターが一覧にない場合”を選択します。



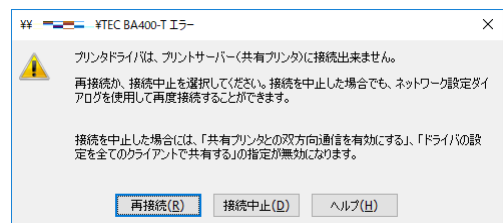
7. “共有プリンタを名前を選択する(S)” を選択し、共有設定したプリンタのネットワークパス（例：\\¥¥*****¥TECB-A400-T）を入力し、[OK] をクリックします。



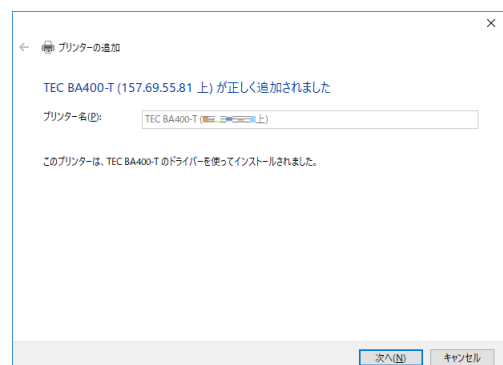
8. インストールが開始します。



補足：インストール後、右の画面が表示された場合、[接続中止 (D)] をクリックしてください。

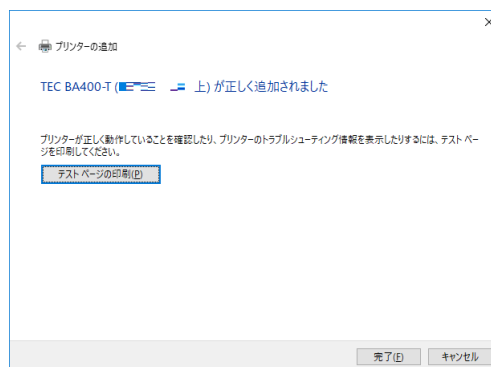


9. [次へ(N)] をクリックします。



10. インストールが終了すると、プリンタの追加の完了画面が表示されます。このとき、[プリンタ] フォルダに新しくアイコンが追加されます。[完了(F)] をクリックします。テストページの印刷をする場合、[テストページの印刷(P)] をクリックしてください。

注意：プリンタドライバの設定は共有先の PC 毎に保存されるので、インストールが終了した後にプリンタドライバの設定を行なってください。



- 上記手順でインストールに失敗するときは、”[スタート]–[設定]–[デバイス]–[プリンターとスキャナー]–[プリンターまたはスキャナーを追加します]–[プリンターが一覧にない場合]” からインストールすることにより回避できる場合があります。



2.3 Windows へのインストール (USB 接続・プラグ&プレイ インストール)

注意：インストール後に不明なデバイスが作成された場合、『プラグアンドプレイのインストールが失敗する場合』を行ってください。

1. コンピュータの電源を入れてください。
注意：管理者権限をもつユーザーでログオンしてください。
2. 電源を入れたプリンタとコンピュータを USB ケーブルで接続します。
3. デバイスドライバソフトウェアのインストールが自動的に開始されます。
4. しばらくすると、プリンタドライバのインストールが終了します。
5. インストールが終了すると、[プリンタ] フォルダに新しくアイコンが追加されます。

2.4 Windows へのインストール (パラレル接続・プラグ&プレイ インストール)

注意：インストール後に不明なデバイスが作成された場合、『プラグアンドプレイのインストールが失敗する場合』を行ってください。

1. プリンタとコンピュータをパラレルケーブルで接続します。
2. プリンタの電源を入れます。
3. プリンタのパラメータ設定を行います。
 - <B-SA4TM / TP-TS15または B-858-TS25-R、B-SX8T-TS15-R、B-EX4T1-TS25-R / TS35-S、B-EX4T3-HS13-R / HS23-S、B-857-CTY-TC35-R、B-EX6T1-TS15-R / TS25-Sの場合>
プリンタのパラメータ設定で“<2>PARAMETER SET”の“PLUG & PLAY”を“ON”に設定します。

注意：パラメータ設定方法については、『6.2 プリンタのパラメータ設定方法』を参照してください。
4. コンピュータの電源を入れてください。

注意：管理者権限をもつユーザーでログオンしてください。
5. システム起動後、デバイスドライバソフトウェアのインストールが自動的に開始されます。
6. しばらくすると、プリンタドライバのインストールが終了します。
7. インストールが終了すると、[プリンタ] フォルダに新しくアイコンが追加されます。

2.5 削除

◆ プリンタドライバを削除する場合

次の場合には、以下の手順により必ずプリンタドライバを削除してからプリンタドライバをインストールしてください。

- 本バージョンを再インストールする場合。
- 旧バージョンが既にインストール済の場合。
- インストールを途中でキャンセルした場合（デジタル署名の確認時に[いいえ(N)]を選択した場合も対象）。
- 何らかのトラブルにより、プリンタドライバがインストールできない場合。

注意：プラグアンドプレイによるインストール時は、プリンタの電源を OFF してから削除を行ってください。

登録済の用紙情報、バーコード情報はプリンタドライバの削除により消えてしまいます。これらの情報はプリンタドライバを削除する前にエクスポート機能を使用することにより、ファイルに保存することが可能です。プリンタドライバの再インストール後に、インポート機能にて保存したファイルを読み込むことにより、これらの用紙情報、バーコード情報が再利用できます。

■ 本バージョン以外のバージョンを削除する場合の準備

プリンタドライバの削除前に、『2.1 前準備』の項目を行ってください。

本バージョン以外のバージョンからのアップデートインストールはできません。前準備の作業前に[コントロールパネル] - [プログラムのアンインストール]からアンインストールする必要があります。

前準備が完了すると、[スタート] - [すべてのプログラム] - [TOSHIBA TEC] - [TPCL Printer Driver] に [Driver Wizard] のショートカットが作成されます。

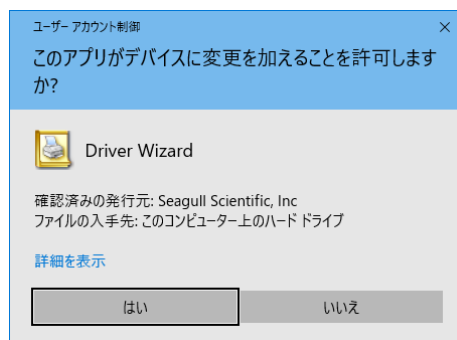
■ “共有プリンタにて印刷する場合(2)”のプリンタドライバを削除する場合の準備

プリンタドライバの削除前に、共有プリンタをインストールしたユーザーでインストールされたときに作成されたプリンタのアイコンを削除してください。

■ プリンタドライバの削除

1. [スタート] - [TOSHIBA TEC] - [Driver Wizard] をクリックしてください。

注意：管理者権限をもつユーザーでログオンしてください。
上記操作を行う前には Windows アプリケーションを終了してください。また、スプーラに印刷ジョブが残っていないことを確認後、スプーラ及びプリンタフォルダを閉じてください。「ユーザーアカウント制御」というタイトルの画面が表示されることがありますが、その場合は [はい] をクリックします。



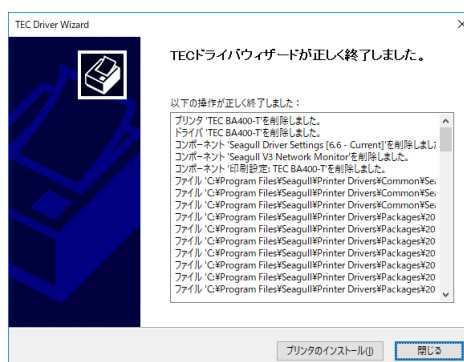
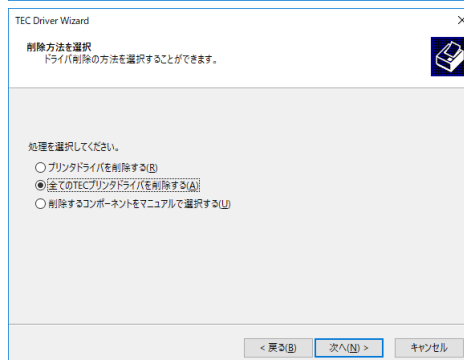
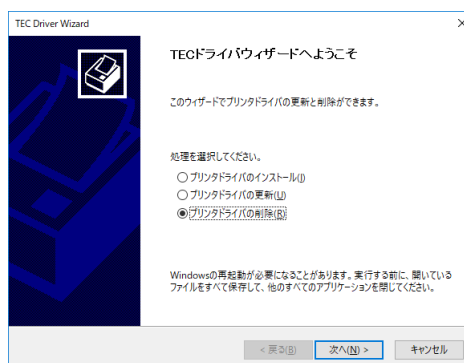
2. [プリンタドライバの削除(R)] を選択し、[次へ(N)] をクリックしてください。

3. [全ての TEC プリンタドライバを削除する] を選択し、[次へ(N)] をクリックしてください。

4. [完了] をクリックしてプリンタドライバの削除を開始してください。

5. 正常に削除が終了すると、左の画面が表示されます。

注意：削除が失敗した場合には、正常終了するまで手順 1 から 4 を繰り返してください。



注意：プリンタドライバの削除を行った後に再インストールする場合、『再セットアップをする場合』を行ってください。

複数のユーザーアカウントでネットワークプリンタのインストールをしている場合、削除ができません。各ユーザーアカウントでプリンタアイコンを削除してから実行してください。

削除後にプリンタフォルダにプリンタアイコンが残ったままの状態になることがあります。その場合 PC を再起動することでプリンタアイコンが削除されます。

■ 前準備でセットアップした情報の削除

1. [スタート] – [コントロールパネル] を選択し、[プログラムの追加と削除] を起動します。
注意：管理者権限をもつユーザーでログオンしてください。
2. “プログラムの変更と削除(H)” 一覧から、“TPCL Printer Driver V (バージョン)”、または“テックプリンタドライバインストール用ファイル” を選択し、[削除] をクリックします。
3. 「追加したアプリケーション、およびすべての機能を完全に削除しますか？」と表示されたら、[はい] をクリックします。
4. 「アンインストール完了」画面が表示されますので、[完了] をクリックして終了します。

3. 機能

本製品の機能設定は、プリンタアイコンの“プロパティ”または“印刷設定”で行います。
 プリンタドライバの各種設定には、ご使用のプリンタに含まれていない機能も表示される場合があります。
 それらの機能や下記一覧表に記載のない機能についてはサポート対象外となります。

■ 機能設定方法

- プリンタアイコン→右クリック→印刷設定
 - 3.1 用紙設定
 - 3.2 グラフィックの設定
 - 3.3 印刷条件の設定
 - 3.4 オプションの設定



○：フルサポート、×：デフォルトのまま使用

機能		概要	サポート
用紙 タブ	用紙サイズ	アプリケーションで使用する任意のサイズの用紙を予め登録します。	○
	印刷向き	印刷するときのイメージの向きを設定します。	○
	効果	<ミラーイメージ> 鏡に映したときのイメージで印刷するかどうかを設定します。	○
		<ネガイメージ> 白黒反転したときのイメージで印刷するかどうかを設定します。	○
	プリセット	印刷設定の各タブで設定した微調整などの設定を保存します。プリセットを選択すると保存された印刷設定の設定値を復元します。	○
	高度な設定 位置調整タブ	<位置調整> 印刷するときの横方向と縦方向の位置を調整します。	×
		<ローテーション調整> デフォルトの印刷の向きを頭出しと尻出しから設定します。	×
	高度な設定 ユーザコマンドタブ	<ユーザーコマンド> ジョブの開始位置と終了位置、ジョブ内のラベルの開始位置と終了位置に送信するプリンタコマンドを設定します。	○
<エスケープキャラクタ> バーコードフォントでバイナリデータを指定する場合に使用するエスケープキャラクタを設定します。		○	

	高度な設定 ドライバオプションタブ	<ライン描画> イメージ内で描画されたラインをラインコマンドに置き換えて処理するために設定します。チェック無しの場合、グラフィックコマンドとして処理されます。	×
用紙 タブ	高度な設定 ドライバオプションタブ	<デフォルトの部数> 印刷する時にデフォルトとして使用される部数を設定します。アプリケーションで変更しない場合はこの値が使用されます。	○
		<部数の制限を無制限にする> デフォルトの部数に 9999 より大きい値を使用可能にするかどうかを設定します。	×
		<"USER (ユーザ定義サイズ)"を無効にする> 用紙サイズの"USER (ユーザ定義サイズ)"を無効にするかどうかを設定します。チェック有りの場合、"USER"を使用できません。	×
		<用紙サイズを共有しない(P) > チェック有りの場合、各プリンタドライバごとに用紙サイズを管理します。	○
	高度な設定 Passthrough タブ	Passthrough 機能	×
グラフィック タブ	解像度	プリンタのヘッド解像度を設定します。	○
	ディザリング	中間色のイメージを印刷するときの処理方法を設定します。	○
		<色調整> イメージの反転や回転、色のバランス調整を設定します。	○
		<ディザリングのセットアップ> 選択したディザパターンの詳細な調整を設定します。	○
	色	<色の制御> 色の処理方法を設定します。	○
印刷条件の設定 タブ	メディア設定	<印刷方法> リボンを使用するかを設定します。	○
		<センサー> 位置調整するためのセンサーを設定します。	○
		<ラベルギャップ> ラベル間のスペースの長さを設定します。	○
	印刷方法	<印刷モード> 剥離発行を使用するか設定します。	○
		<印刷後動作> カット発行を使用するかを設定します。但し、一時停止はサポート外の機能になります。	○
		<動作種別> カット方法を設定します。	○
		<間隔> カット間隔を設定します。	○
		<印刷速度> 発行スピードを設定します。	○
	微調整	<フィード量> 印字開始位置に対してフィードする量を調整します。	○
		<バックフィード量> ホームポジションにバックフィードする量を調整します。	○

		<p><カット／剥離位置> カット発行の場合、カットする位置を調整します。 剥離発行の場合、剥離位置を調整します。</p>	○
オプション タブ	グラフィックオプション	<p><転送モード> グラフィックデータの転送方式を設定します。</p>	○
	印刷濃度調整	<p><直接感熱> 発色の場合の印刷濃度を調整します。</p>	○
		<p><熱転写> リボン転写の場合の印刷濃度を調整します。</p>	○
		<p><ヘッド分割駆動> B-EP2DL-G-JP、B-EP4DL-T-JP、B-LP2D-G、 B-FP2D-G で、印字品質と印字速度のバランスを設定します。</p>	○
オプション タブ	オートフィード	印刷（フィード）終了時に余分にフィードする量を設定します。印刷（フィード）開始時に、印字開始位置までバックフィードします。	○
	サブライオプション	印加制御を設定します。	○
	複写印刷エリア設定	B-EV4-G で、複写印刷する領域と濃度を設定します。	○
	リボン設定	リボンに関する条件を設定します。	○
バージョン タブ	ライセンス	ライセンス情報を表示します。	○
	バージョン	バージョン情報や設定情報、PC 情報を表示します。表示した情報はファイルに保存できます。	○

- プリンタアイコン→右クリック→プロパティ
 - 3.5 フォントの設定
 - 3.6 ツール
 - 3.7 プリンタフォントの指定

▼プリンターと FAX (1)



○：フルサポート、×：デフォルトのまま使用

		概要	サポート
フォント タブ	フォント	バーコードフォントの新規作成、編集、削除に関する設定を行います。但し、RFID フォントはサポート外の機能になります。	○
	表示	リストボックスの表示に関する設定です。	○
	ツール フォントオプション プリンタ内蔵フォント アウトラインフォント オプション	<アウトラインフォントをデバイスフォントとして使用可能にする> アウトラインフォントを使用可能にするかどうかを設定します。	○
		<文字幅の縮小フォント (Cond.) と拡大フォント (Exp.) を使用する> 文字幅を拡大縮小したフォントを使用可能にするかどうかを設定します。	○
		<任意に指定した倍率 (%) のフォントを使用する> 文字幅を任意の倍率に拡大縮小したフォントを使用可能にするかどうかを設定します。	×
		<倍率> アウトラインフォントの文字幅を任意の倍率に拡大縮小するときの倍率を設定します。	×
	ツール フォントオプション プリンタ内蔵フォント ビットマップフォント オプション	<ビットマップフォントをデバイスフォントとして使用可能にする> ビットマップフォントを使用可能にするかどうかを設定します。	○
		<疑似アウトラインフォント> ビットマップフォントをアウトラインフォントと同じサイズで指定するかどうかを設定します。	×
		<拡大フォントを使用する> ペースフォントを拡大した倍率のフォントを使用可能にするかどうかを設定します。	○
		<文字幅の縮小フォント (Cond.) と拡大フォント (Exp.) を使用する> 文字幅を拡大縮小したフォントを使用可能にするかどうかを設定します。	○
フォント タブ	ツール フォントオプション プリンタ内蔵フォント 互換性の設定	<デバイスフォントをキャラクタセットごとに表示する> プリンタフォントに設定されたデータを個別のコードページでエンコードして印刷するための設定です。	×
	ツール フォントオプション ユーティリティフォント ユーティリティフォン	<ユーティリティフォントをデバイスフォントとして使用可能にする> ユーティリティフォントを使用可能にするかどうかを設定します。	○

トオプション	<バーコードフォントと RFID フォントを使用する> バーコードフォントと RFID フォントを使用可能にするかどうかを設定します。但し、RFID フォントはサポート外の機能になります。	○	
	<プリンタコマンドフォントを使用する> 指定されたデータをそのままの形式でプリンタに送信するフォントを使用可能にするかどうかを設定します。	○	
	<ドライバーコマンドフォントを使用する> 既定の形式で指定されたデータからコマンドを生成するフォントを使用可能にするかどうかを設定します。	×	
	フォントオプション ユーティリティフォント 互換性の設定	<隣接するデータを連結する> 同じバーコードフォントに指定された文字を連結して印刷するかどうかを設定します。	○
フォントオプション エンコード	プリンタフォントを印刷する場合のデータのエンコード方法を設定します。	×	
ツール ドライバオプション	ツールタブのドライバオプションを参照してください。	—	
ツール タブ	印刷	テスト印刷を行います。	○
	動作チェック	<フィード> 用紙を 1 枚紙送りします。	○
		<カット> 現在の位置でカットします。	○
		<プリンタ情報の読み込み> プリンタから取得したバージョン情報とオプション情報を表示します。	×
		<XML データプリントファイルを管理する> プリンタに登録されているフォーマット、グラフィック、フォントなどのファイルを管理できます。	×
		<プリンタのリセット> プリンタをリセットします。	○
		<サーマルヘッド断線チェック> サーマルヘッドの断線チェックを行います。	○
		<プリンタコマンド送信> 記述したプリンタのコマンドをプリンタに送信します。また、双方向通信が使用可能な場合、送信後にプリンタから取得したステータスを表示できます。	○
		<ファイルをプリンタに送信> コマンドファイルのデータをプリンタに送信します。	○
	設定 プリンタオプション	<ステータス自動送信を有効にする> 印字終了や各種エラー発生時にプリンタから自動的に送られてくるステータスの応答の有無を切り換えます。	○
		<ジョブ情報を付加する> プリンタから SNMP で取得するジョブ情報を印刷するジョブに付加するかどうかを設定します。	○
		<コマンドシーケンスをチェックする> プリンタが受信したコマンドに抜けてがないかをチェックするコマンドを付加するかどうかを設定します。	○
		<コマンドプロトコル> プリンタコマンドで使用する制御コードを設定します。	○
		<Bluetooth 通信設定を有効にする> 仮想 COM ポートを使用して Bluetooth 通信をする場合に有効にします。	○

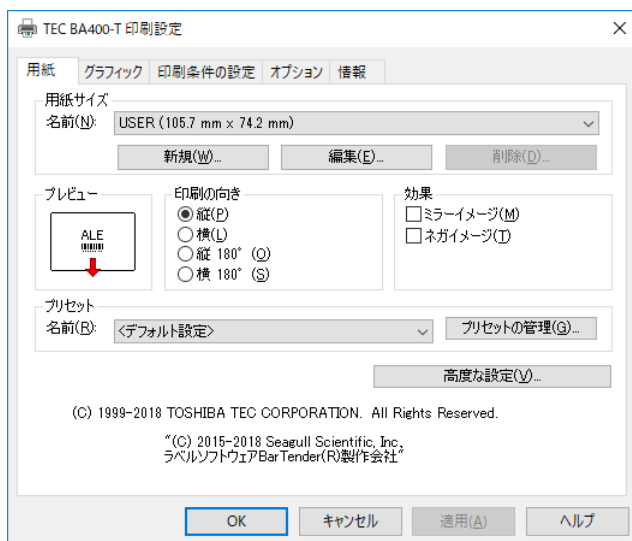
		<リンク切断前 Wait 時間> Bluetooth 通信時でデータ送信完了からリンク切断までの待機時間を設定します。	○
ツール タブ	設定	<自動頭出しフィード機能設定> 自動頭出しフィード機能を有効にするかどうかを切り換えます。	○
		<メモリ設定> プリンタの内蔵メモリ、または、拡張メモリの登録エリアをアロケートします。	○
		<フラッシュメモリの初期化> 選択したフラッシュメモリの領域をフォーマットします。	○
		<リボン設定> リボンモータの駆動電圧を調整するために微調値を設定します。	○
	ドライバオプション インポートおよびエクスポート	プリンタドライバの設定情報をファイルに保存できます。保存したファイルから設定情報を読み込み、プリンタドライバの設定に反映させます。	○
	ドライバオプション ネットワーク設定	共有プリンタをネットワークプリンタとしてインストールした場合、サーバーとクライアント間で設定情報やステータス情報を共有することができます。	×
	ドライバオプション 地域のオプション	<言語の選択> 表示に使用する言語を選択します。	○
		<単位の選択> 使用する単位を選択します。	○
		<Windows の設定> Windows の“地域の言語のオプション”を表示します。	○
	ドライバオプション プリンタの仕様	<印字不可領域> 構造的に印刷できない領域を設定します。	×
		<このプリンタモデル（機種）の仕様> プリンタの解像度や用紙サイズ等の仕様を設定します。	×
	ロギングオプション	<ロギング> 印刷したページやジョブの履歴をファイルやイベントログとして記録することができます。但し、デフォルトのレガシーログ以外はサポート外の機能となっております。	○
		<プリンタコード記録> 印刷したジョブのコマンドデータをファイルとして記録することができます。	○
	ステータスマニター	<ステータスウィンドウ> プリンタの状態を表示します。	○
<ステータス監視> ステータスマニターの起動方法や表示のオプションを設定します。但し、一部サポート外の機能があります。		○	
<印刷ジョブの監視> 印刷ジョブの監視方法を設定します。		×	
<通信設定> ステータス監視におけるタイムアウトとポーリング間隔を設定します。		×	
バージョン タブ	ライセンス	ライセンス情報を表示します。	○
	バージョン	バージョン情報や設定情報、PC 情報を表示します。表示した情報はファイルに保存できます。	○

参考：* アプリケーション内の印刷ダイアログボックスからでも、本製品の一部機能の設定ができますが、その場合一時変更的に扱われることがありますので、ご注意ください。

* 外部機器インターフェースマニュアル（非売品）は、本製品に同梱されておりません。ご希望される場合は弊社窓口までお問い合わせください。

3.1 用紙設定

「用紙」タブを選択すると、用紙サイズや印刷向きなど用紙に関する設定が行えます。



注意：共有プリンタへ印刷する場合、印刷指示を行うクライアントコンピュータに、“印刷向き”や“用紙サイズ”を登録してください。共有プリンタ側に用紙サイズを登録しても、クライアント側と用紙サイズを共有して使用することはできません。

■ 用紙サイズ

□ 名前(N)

用紙サイズとして登録されている名前から、既定とする用紙サイズを選択します。
また、編集または削除する用紙サイズの名前を選択します。

□ 新規(W)、編集(E)、削除(D)

“新規(W)”、“編集(E)”、“削除(D)”の各ボタンにより、用紙サイズのメンテナンスを行います。
→『3.1.1 用紙サイズの編集』を参照してください。
用紙サイズの登録数に制限はありません。

■ 印刷の向き

印刷の向きを選択します。“縦(P)”と“縦180°(O)”で頭出し印刷と尻出し印刷を切え替えます。
“横(L)”は“縦(P)”を90°回転した印刷向きになります。
プレビューの矢印の向きで印刷の向きを確認してください。
プリンタの機種により、“縦(P)”の選択時の印刷向きが異なります。

■ 効果

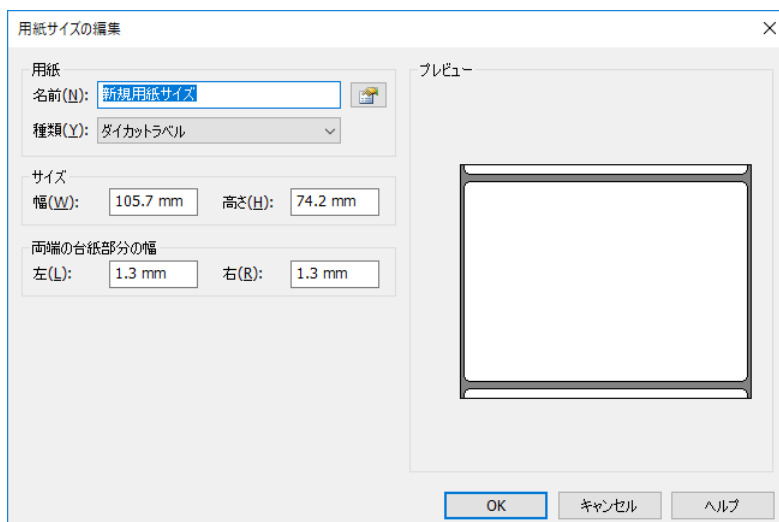
“ミラーイメージ(R)”、“ネガイメージ(T)”から選択できます。
“ミラーイメージ(R)”は、鏡に映したイメージで印刷します。
“ネガイメージ(T)”は、白黒を反転させたイメージで印刷します。
プリンタの機種により、選択できる項目が異なります。

■ プリセット

印刷設定の設定内容に名前を付け、設定情報を保存できます。
プリセットの名前を選択し、保存した設定情報を呼び出して印刷することができます。
→『3.1.2 プリセット』を参照してください。

3.1.1 用紙サイズの編集

「用紙」タブの“新規(W)”または“編集(E)”ボタンをクリックすると、用紙サイズの編集が行えます。お使いの用紙（サイズ）が、既存の「用紙」に無い場合には、“新規(W)”に用紙サイズを登録してください。既存の「用紙」を“編集(E)”すると、その用紙を使用している他のプリンタドライバの設定も変更されます。



■ 用紙

□ 名前(N)

“新規(W)”の場合は、用紙サイズの名前を任意に設定できます。(2バイト文字も可)

□ 種類(Y)

用紙種類を選択します。

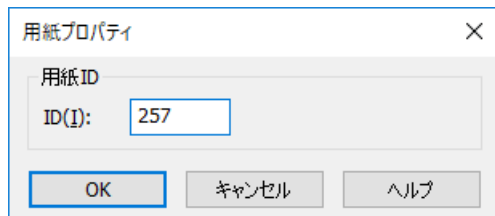
“ダイカッタラベル”、“連続紙（固定長）”は、標準ラベルや連続紙の場合に使用します。

V7.4M-1より前のバージョンで作成した用紙と同じ動作となります。

“連続紙（可変長）”は、連続紙の場合に指定可能です。印字内容によって搬送する用紙の長さが変わります。



用紙プロパティダイアログを表示します。



□ ID(I)

用紙を識別するための ID を入力します。(257～32767)

旧バージョンと同じ用紙 ID を指定する必要がある場合のみ変更します。

Excel や Access 等の用紙を用紙 ID で管理するアプリケーションで、用紙が登録されているにも関わらず指定したサイズで印刷されない場合に変更してください。

■ サイズ

- 幅(W)、高さ(H)
用紙の有効印字幅と有効印字長を入力します。

■ 両端の台紙部分の幅

- 左(L)、右(R)
左右の台紙のはみ出した部分の幅を入力します。(左右同じ値にします。)

■ 余白

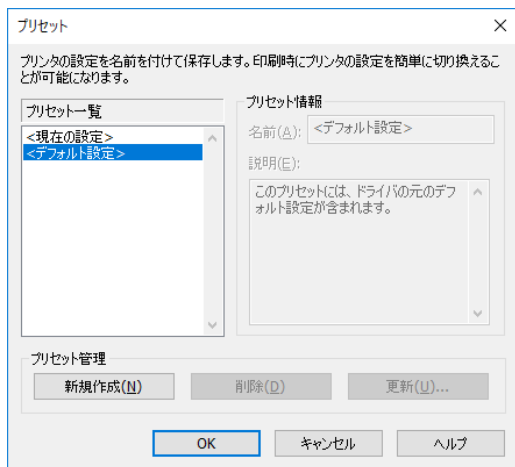
- 上(T)、下(B)、左(L)、右(R)
用紙の上下左右の余白を入力します。
注意：上下余白を最大用紙長と同等の値に設定した場合、エラーが発生する場合があります。

■ プリセット

- プリセットの設定で印刷する(S)
用紙毎に異なる設定情報を付加するか否かを設定します。
但し、本設定はプリセットを追加していない場合、表示されません。表示されていない場合はチェックしないのと同じ動作になります。
チェックしない場合、用紙に関係なく設定された印刷設定の設定値で印刷されます。
チェックした場合、用紙毎に設定された印刷設定の設定値で印刷されます。
<手順>
①プリセット管理の機能で印刷設定のセンサーや微調整等の設定情報をプリセットとして作成します。
②チェックして、コンボボックスに作成したプリセットを指定します。
③プリセットが指定された用紙で印刷した場合、プリセットに保存された設定情報が読み込まれ、印刷に反映されます。
注意：本設定を使用する場合、切替えながら使用する他の用紙にも設定を行ってください。
プリセットはプリンタドライバ毎に作成する必要があり、用紙はプリンタドライバで共通で作成されます。そのため、異なるプリンタドライバで同じ用紙に別のプリセットを付加することがないようご注意ください。プリンタドライバ毎に用紙とプリセットを作成して設定をしてください。固定の用紙で設定した場合、インポート／エクスポートの機能で引き継がれません。エクスポートした後に再設定してください。

3.1.2 プリセット

「用紙」タブの“プリセットの管理(G)” ボタンをクリックすると、プリンタの設定情報に名前を付けて管理できます。



■ プリセット管理

□ 新規作成(N)

[用紙] タブ、[印刷条件の設定] タブなどの設定を変更し、新規のプリセット名に設定情報を保存する場合、[新規作成] をクリックし、“名前(A)” および“説明(E)” を指定します。印刷設定の各タブの設定情報をプリセットとして管理できます。“説明(E)” は管理するために設定情報に関する内容を入力してください。[OK] を押すと設定が保存されます。

保存する設定情報

➤ [用紙] タブ

- * 用紙サイズ
- * 印刷の向き（印刷時は、アプリケーションから設定する「用紙の向き」の方が優先されます。）
- * 効果
- * 高度な設定（ユーザーコマンドタブのみ）

➤ [グラフィック] タブ

- * デザリング

➤ [印刷条件の設定] タブ

- * メディア設定
- * 印刷方法
- * 微調整

➤ [オプション] タブ

- * グラフィックオプション
- * 印字速度設定
- * 印刷濃度調整
- * オートフィード
- * 複写印刷エリア設定
- * リボン設定

□ 削除(D)

削除するプリセットを選択し、[削除] をクリックします。[OK] を押すと設定が保存されます。

□ 更新(U)

[用紙] タブ、[印刷条件の設定] タブなどの設定を変更し、既存のプリセット名にその変更を反映させる場合、プリセット一覧から該当するプリセット名を選択し、[更新] をクリックします。[OK] を押すと設定が保存されます。

3.1.3 高度な設定

「用紙」タブの“高度な設定(V)” ボタンをクリックすると、印刷に関する応用的な設定が行えます。

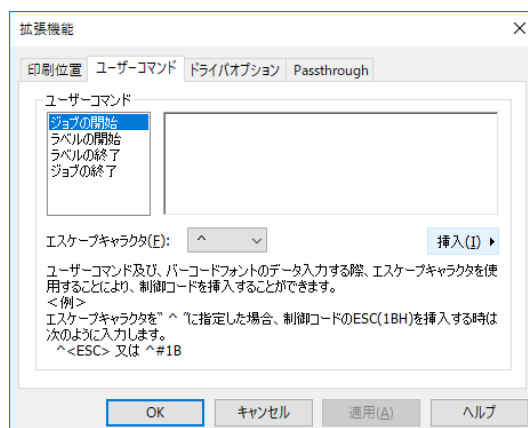
■ ユーザーコマンド

□ ユーザーコマンド列の記述

“ジョブの開始”、“ジョブの終了”、“ラベルの開始”、“ラベルの終了”の各タイミングで送信するプリンタのプリンタコマンド列を記述することができます。

本製品の設定でカバーできないプリンタ動作などを、コマンド列で記述してください。

補足：外部機器インターフェースマニュアル（非売品）を参照してください。外部機器インターフェースマニュアルをご希望のお客様は弊社窓口までお問い合わせください。



□ エスケープキャラクタ(F)

バーコードフォントを使用してバーコードを印刷する場合、エスケープキャラクタを使用することによりバーコードデータにバイナリデータを指定することが可能になります。初期値は caret [^] (5EH)に設定されます。

以下、初期値の caret [^] (5EH)を使用した場合の説明になります。

ヘキサデシマル入力

^#nn

例

00から06までのバイナリを指定する場合の記述

^00^01^02^03^04^05^06

略語による入力

^<ccc>

例

00から06までのバイナリを指定する場合の記述

^<NUL>^<SOH>^<STX>^<ETX>^<EOT>^<ENQ>^<ACK>

エスケープキャラクタの入力

バーコードデータにエスケープキャラクタを入力する場合にはエスケープキャラクタを2回送ります。

^^

バイナリデータ

<NUL> 00	<DLE> 10
<SOH> 01	<DC1> 11
<STX> 02	<DC2> 12
<ETX> 03	<DC3> 13
<EOT> 04	<DC4> 14
<ENQ> 05	<NAK> 15
<ACK> 06	<SYN> 16
<BEL> 07	<ETB> 17
<BS> 08	<CAN> 18
<HT> 09	 19
<LF> 0A	<SUB> 1A
<VT> 0B	<ESC> 1B
<FF> 0C	<FS> 1C
<CR> 0D	<GS> 1D
<SO> 0E	<RS> 1E
<SI> 0F	<US> 1F
	 7F

■ ドライバオプション

□ ライン描画

プリンタによるライン描画(S)

イメージ内で描画されたラインをラインコマンドに置き換えて処理するかどうかを設定します。

チェックしない場合、グラフィックコマンドとして処理されます。チェックした場合、プリンタのライン描画機能を使ってラインを印刷することができ、印刷スループットの向上が見込めます。

最小の長さ(L)

プリンタによるライン描画で処理されるラインの最小の長さを設定します。設定した値より短いラインは、グラフィックコマンドとして処理されます。

注意：使用するアプリケーションにより、このライン描画機能が正しく働かない場合があります。その場合は、チェックをはずしてご使用ください。

□ ソフトウェアとの互換性

デフォルトの部数(C)

印刷する時にデフォルトとして使用される部数の設定です。アプリケーションで変更しない場合はこの値が使用されます。

部数の制限を無効にする(D)

デフォルトの部数に9999より大きい値を使用可能にするための設定です。サポート外の機能となっております。デフォルトのままご使用ください。

“USER（ユーザ定義サイズ）”を無効にする(U)

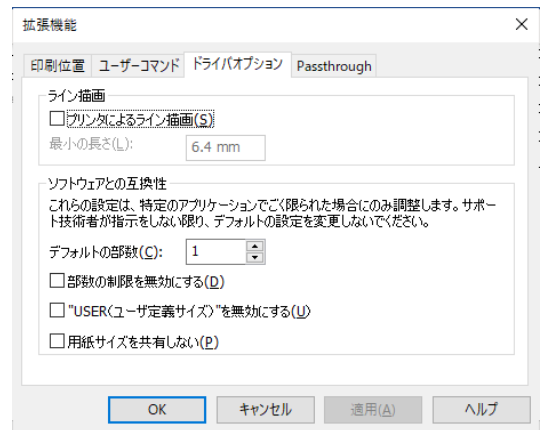
用紙サイズの“USER（ユーザ定義サイズ）”を無効にするための設定です。チェック有りの場合、“USER”を使用できません。

サポート外の機能となっております。デフォルトのままご使用ください。

用紙サイズを共有しない(P)

複数のプリンタを追加している場合に、用紙サイズリストをプリンタ間で共有する・しないを切り替える設定です。

チェック有りの場合、プリンタ間で用紙サイズを共有しなくなります。



■ 印刷位置

□ 位置調整

横方向(H)

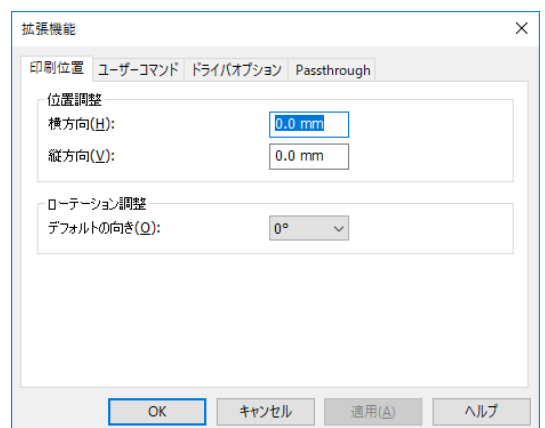
横方向の位置を調整して印刷します。

サポート外の機能となっております。デフォルトのままご使用ください。

縦方向(V)

縦方向の位置を調整して印刷します。

サポート外の機能となっております。デフォルトのままご使用ください。



□ ローテーション調整

デフォルトの向き(D)

デフォルトの印刷の向きを設定します。“0°”の場合は尻出し、“180°”の場合は頭出しになります。サポート外の機能となっております。デフォルトのままご使用ください。

■ Passthrough

この機能は、サポート対象外です。

3.2 グラフィックの設定

「グラフィック」タブを選択すると、ディザリングの選択や色の調整が行えます。



□ 解像度(R)

プリンタのヘッド解像度を設定します。プリンタの機種に適合した設定のみ選択可能です。

□ ディザリング

グラフィック印刷時の描画（ディザリング）パターンを選択します。

- * なし(N)
- * ハーフトーン(H)
- * オーダード(O)
- * 代数(B)
- * 誤差拡散法(E)

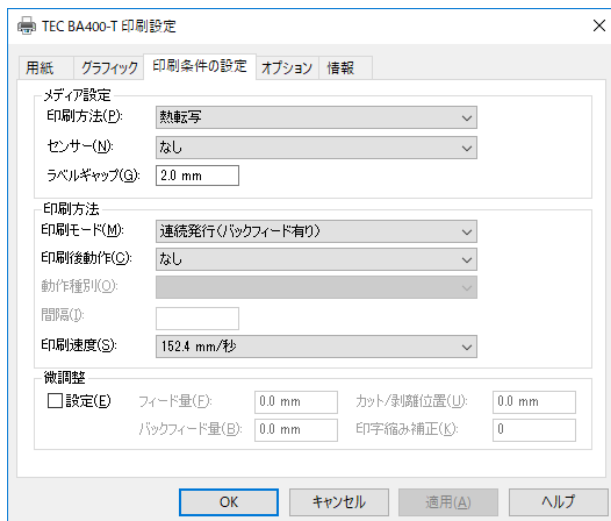
[ディザリングのセットアップ] をクリックすると、数種類のアルゴリズムの中から選択できます。アルゴリズムはディザリングパターンによって異なります。

□ 色の制御

色の処理方法を設定します。

3.3 印刷条件の設定

「印刷条件の設定」を選択すると、プリンタ固有の印刷条件が設定できます。



■ メディア設定

□ 印刷方法(P)

用紙の印刷方式の種別を選択します。

- * 直接感熱
- * 直接感熱（無印字エリアヘッドアップ）
- * 熱転写
- * 熱転写（リボンセーブ）

“熱転写（リボンセーブ）”は、リボンセーブ機能に対応したプリンタのみ使用可能です。

“直接感熱（無印字エリアヘッドアップ）”は、RFID 対応プリンタのみ使用可能です。RFID 対応プリンタ以外で“直接感熱（無印字エリアヘッドアップ）”を指定した場合は、プリンタがエラーになります。タグ内蔵 IC がサーマルヘッド部を通過する時に、サーマルヘッドをアップシタグ内蔵 IC を保護します。

□ センサー(N)

センサーの種別を選択します。

- * なし
- * 反射センサー（通常ラベル使用時）
- * 透過センサー（通常ラベル使用時）
- * 中央透過センサー（通常ラベル使用時）
- * 透過センサー（手動スレッシュホールド値使用時）
- * 反射センサー（手動スレッシュホールド値使用時）
- * 下側反射センサー（裏側マーク使用時）
- * 下側反射センサー（手動スレッシュホールド値使用時）
- * 上側反射センサー（印刷面マーク使用時）
- * 下側反射センサー（パンチホール使用時）

“透過センサー（手動スレッシュホールド値使用時）”、“反射センサー（手動スレッシュホールド値使用時）”は、プリンタのスレッシュホールド設定操作（キー操作）で、使用するセンサーのスレッシュホールドの設定を行ったときに選択します。下側反射センサー（裏側マーク使用時）、下側反射センサー（手動スレッシュホールド値使用時）、上側反射センサー（印刷面マーク使用時）は B-858-R と BX820-T でのみ使用可能です。下側反射センサー（パンチホール使用時）は B-858-R でのみ使用可能です。“中央透過センサー（通常ラベル使用時）”は B-LV4-G/T でのみ使用可能です。

- ラベルギャップ(G)
ラベル間ギャップの大きさを設定します。タグの場合は印刷しない領域を設定します。

- 印刷開始位置(P)
印刷開始位置を設定します。

■ 印刷方法

- 印刷モード(M)
印刷モードを選択します。
 - * 連続発行 (バックフィード有り)
 - * 剥離発行 (バックフィード有り)
 - * 剥離発行 (アプリケーション使用時)
 - * パーシャルカット発行 (バックフィードなし)
 - * 連続発行
 - * カット発行

カット機構を装着してカット発行する場合は“連続発行 (バックフィード有り)”か“カット発行”を選択してください。

剥離機構を装着して剥離発行する場合は“剥離発行 (バックフィード有り)”か“剥離発行 (アプリケーション使用時)”を選択します。

“パーシャルカット発行 (バックフィードなし)”を設定した場合、印刷後動作は“パーシャルカット”が必ず設定されます。

- 印刷後動作(C)
カット発行する、しないを設定します。

- * しない
- * カット
- * パーシャルカット
- * パーシャルカット&一時停止
- * カット&一時停止
- * 一時停止
- * ライナレスカット
- * ライナレスカット&一時停止

“パーシャルカット”を設定した場合、印刷モードで“パーシャルカット発行 (バックフィードなし)”が必ず設定されます。

“パーシャルカット&一時停止”、“カット&一時停止”、“一時停止”、ライナレスカット&一時停止はサポート外の機能です。

- 動作種別(O)
カット発行する場合のカットするタイミングを選択します。
印刷モードが“剥離発行 (バックフィード有り)”と“連続発行”の場合、“カット”は選択できません。

- * 1枚毎
- * 指定の間隔
- * 同一ラベル毎に指定の間隔
- * 同一ラベル毎 (コピー枚数毎)
- * 印刷ジョブの最後
- * 指定の間隔 (プリンタによる)

一定間隔でカットする場合は、“指定の間隔”を選択し、“間隔(I)”を入力します。

ラベル毎に指定の間隔でカットをする場合は、“同一ラベル毎に指定の間隔”を選択し、“間隔(I)”を入力します。

ラベル毎にカットをする場合は、“同一ラベル毎 (コピー枚数毎)”を選択します。

“指定の間隔 (プリンタによる)”はプリンタの仕様でカット発行する場合に使用します。

特別なプリンタ制御 (パーシャルカット等)が必要な場合、“指定の間隔 (プリンタによる)”を選択し、

“間隔(I)”を入力します。

カット例：4ページのラベルをコピー枚数5枚で発行した場合

動作種別	間隔	(▲:カット位置)
1枚毎	—	1▲1▲1▲1▲1▲2▲2▲2▲2▲2▲3▲3▲3▲3▲3▲4▲4▲4▲4▲4▲
指定の間隔	3	1 1 1▲1 1 2▲2 2 2▲2 3 3▲3 3 3▲4 4 4▲4 4▲
同一ラベル毎に 指定の間隔	3	1 1 1▲1 1▲2 2 2▲2 2▲3 3 3▲3 3▲4 4 4▲4 4▲
同一ラベル毎 (コピー枚数毎)	—	1 1 1 1 1▲2 2 2 2 2▲3 3 3 3 3▲4 4 4 4 4▲
印刷ジョブの最後	—	1 1 1 1 1 2 2 2 2 2 3 3 3 3 3 4 4 4 4 4▲
指定の間隔 (プリンタによる)	3	1 1 1▲1 1▲2 2 2▲2 2▲3 3 3▲3 3▲4 4 4▲4 4▲

□ 間隔(I)

指定の間隔でカット発行する場合は、カットする間隔を設定できます。

□ 印刷速度(S)

印刷速度を選択します。プリンタの機種により、選択できる速度が異なります。

■ 微調整

□ 設定(E)

“設定(E)”をチェックすると、各動作の微調値が設定できます。“設定(E)”をチェックしないと、プリンタの現在の設定で動作します。

- * フィード量(F)
- * バックフィード量(B)
- * カット/剥離位置(U)

プリンタの機種により、設定できる項目が異なります。

□ フィード量(F)

印字開始位置に対してフィードする量を調整できます。

□ バックフィード量(B)

ホームポジションにバックフィードする量を調整できます。

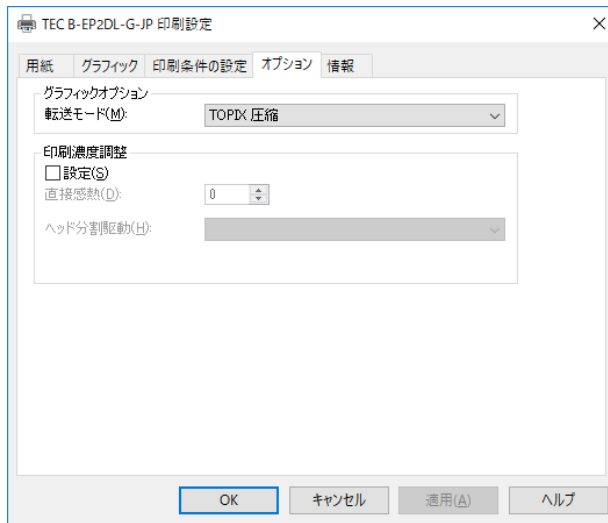
□ カット/剥離位置(U)

カット発行の場合、カットする位置を調整できます。
剥離発行の場合、剥離位置を調整できます。

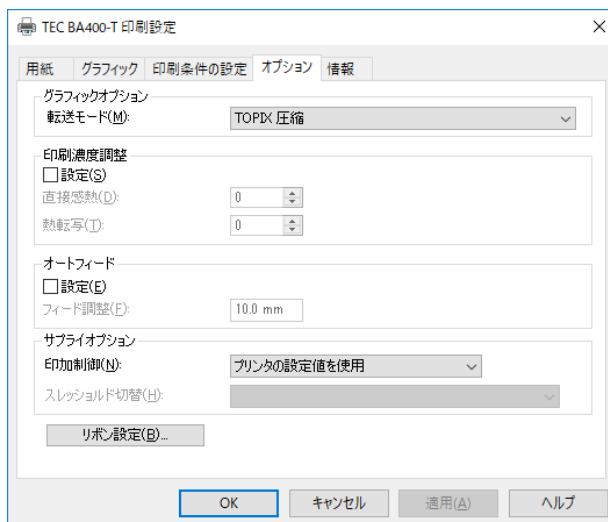
3.4 オプションの設定

「オプション」タブを選択します。

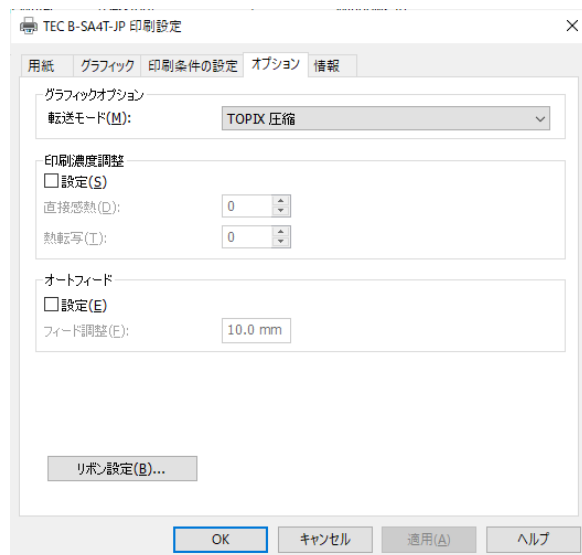
◆B-EP2DL-G-JP、B-EP4DL-T-JP、B-LP2D-G、B-FP2D-G の場合



◆B-EX4T1-T、B-EX4T3-H、BA400-T、BA400-G、BV400-T、BV400-G、BX410-T、BX430-H、BX610-T、BX820-T の場合



◆上記モデル以外の場合



□ グラフィックオプション

“転送モード(M)”にて、グラフィックデータの転送方式が選択できますが、“TOPIX 圧縮”方式でお使いください。TOPIX 圧縮に未対応の機種をお使いの場合は、“ヘキサモード上書き描画”方式を選択してください。“TOPIX 圧縮 (XOR)”方式は、前ページと異なる部分のみを処理することでスループットを向上させることができます。同じフォーマットで一部分だけが異なるイメージを印刷する場合に選択してください。但し、イメージによってはスループットが向上しない場合があります。

□ 印刷濃度調整

“設定(S)”をチェックすると、印刷時のヘッド電圧の値を“直接感熱(D)”、“熱転写(T)”用にそれぞれ設定できます。“設定(S)”をチェックしないと、プリンタの現在の設定で動作します。

B-EP2DL-G-JP、B-EP4DL-T-JP、B-LP2D-G、B-FP2D-G の場合 “ヘッド分割駆動(H)”を設定できます。選択したヘッドの制御方法により印字品質と印字速度が変わります。“設定(S)”をチェックしないと、プリンタの現在の設定で動作します。

KP-20の場合、“用紙種別”を設定できます。使用する用紙に応じて選択します。“設定(S)”をチェックしないと、プリンタの現在の設定で動作します。

□ オートフィード

“設定(E)”をチェックすると、“フィード調整(F)”にて印刷後に自動的に紙送りする量を設定できます。印刷開始時には、自動的に印字開始位置までバックフィードします。“設定(E)”をチェックしないと、プリンタの現在の設定で動作します。B-EP2DL-G-JP、B-EP4DL-T-JP、B-LP2D-G、B-FP2D-G は設定できません。

□ サプライオプション

印刷時の印加制御を“直接感熱”、“熱転写”用にそれぞれ設定できます。“プリンタの設定値を使用”を指定すると、プリンタの現在の設定で動作します。

「印刷条件の設定」タブの“印刷方法(P)”の設定で、“直接感熱”と“熱転写”の設定が切替わります。

『3.3 印刷条件の設定』でセンサーを手動スレッシュルド使用時に設定した時、プリンタ本体に設定してある透過センサー、反射センサーそれぞれ5つのスレッシュルドの内、どれを使うかを設定します。

□ リボン設定

転写でリボンを使用する場合、リボンに関する条件を設定します。

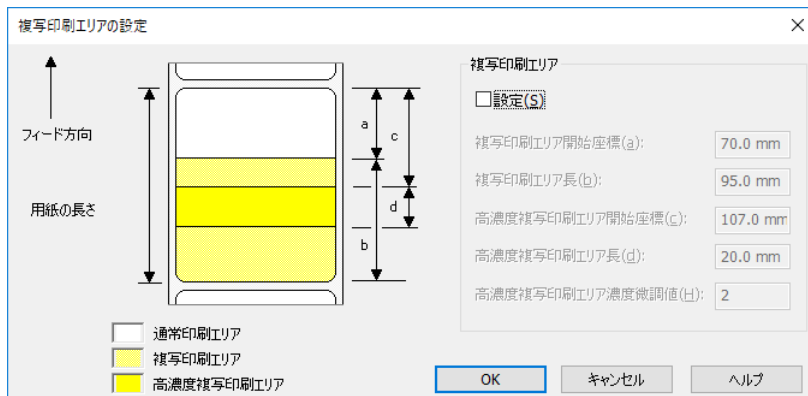
□ 複写印刷エリア設定

複写用紙を使用する場合、複写印刷する領域を設定します。B-EV4-G のみ設定可能です。

B-EV4-G の場合、「印刷条件の設定」の“印字速度(S)”を“可変速度”、または、“可変速度 A”に指定すると動作に反映されます。

3.4.1 複写印刷エリア設定 (B-EV4-G のみ設定可能)

「オプション」タブの“複写印刷エリア設定”ボタンにより、複写印刷エリアの設定を行います。



□ 複写印刷エリア

“設定(S)”をチェックすると、複写印刷エリアが設定できます。“設定(S)”をチェックしないと、プリンタの現在の設定で動作します。

□ 複写印刷領域

複写する印刷領域の開始位置 [複写印刷エリア開始座標(a)] と、長さ [複写印刷エリア長(b)] を指定します。複写印刷領域として指定した領域は、何も指定していない領域よりも濃く印刷されます。

➢ 複写印刷領域の開始位置と長さの指定範囲： 0.0mm ~ 390.0mm

□ 高濃度複写印刷領域

複写印刷領域よりも濃く印刷する領域の開始位置 [高濃度複写印刷エリア開始座標(c)] と、長さ [高濃度複写印刷エリア長(d)] を指定します。複写印刷領域の濃度に対し、高濃度複写の濃度微調値で設定した値分濃く印刷されます。(高濃度複写の濃度微調値が“0”の場合、複写印刷領域と高濃度複写印刷領域の濃さは同じになります。)

➢ 高濃度複写印刷領域の開始位置値と長さの指定範囲： 0.0mm ~ 390.0mm

□ 高濃度複写の濃度微調値

高濃度複写印刷領域の印刷濃度を、複写印刷領域の印刷濃度に対しどの程度濃くするか、印刷濃度を微調整します。

➢ 濃度微調値 [高濃度複写印刷エリア濃度微調値(H)] の設定範囲： 0 ~ 10

補足：* 複写できる枚数は1枚までです。

* OCR やバーコードを複写印字した場合、かすれが生じたときは、その印刷する領域を高濃度複写印刷領域として指定することにより、かすれを少なくすることができます。

* 複写印刷領域と高濃度複写印刷領域は、それぞれ別々に指定が可能です。

* 複写印刷領域のみ指定することや、高濃度複写印刷領域のみ指定することが可能です。

* 複写印刷領域内に高濃度複写印刷領域を指定する必要はありません。

* [オプション] の [印刷濃度微調整] で指定した濃度微調は、複写印刷領域および高濃度複写印刷領域にも反映されます。

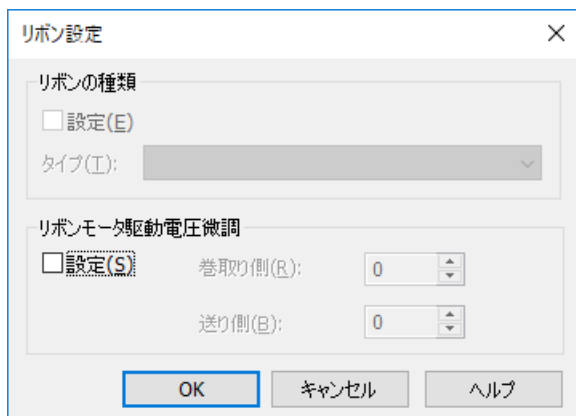
* 何も指定していない領域の濃度 = 印刷濃度微調整値

* 複写印刷領域の濃度 = 印刷濃度微調整値 + 複写印刷用の標準濃度

* 高濃度複写印刷領域の濃度 = 印刷濃度微調整値 + 複写印刷用の標準濃度 + 高濃度複写印刷の濃度微調値

3.4.2 リボン設定

「オプション」タブの“リボン設定”ボタンにより、リボンに関する設定を行います。



- リボンの種類
“設定(S)”をチェックすると、リボンの種類が設定できます。“設定(S)”をチェックしないと、プリンタの現在の設定で動作します。
リボンの種類が選択できる機種のみ設定可能です。
- タイプ
プリンタで使用するリボンの種類を選択します。プリンタの機種により、選択できる種類が異なります。
- 幅
プリンタで使用するリボンの幅を選択します。プリンタの機種やリボンタイプにより、選択できる幅が異なります。
- リボンモーター駆動電圧微調
“設定(S)”をチェックすると、リボンモーター駆動電圧が設定できます。“設定(S)”をチェックしないと、プリンタの現在の設定で動作します。
- 巻取り側
リボンのしわを抑えるために巻取り側の電圧値を設定します。値を下げた場合、巻取り側の駆動力を弱くしてリボンのテンションが緩まります。プリンタの機種により、設定できる範囲が異なります。
- 送り側
リボンのしわを抑えるために送り側の電圧値を設定します。値を下げた場合、送り側の駆動力を弱くしてリボンのテンションが緩まります。プリンタの機種により、設定できる範囲が異なります。

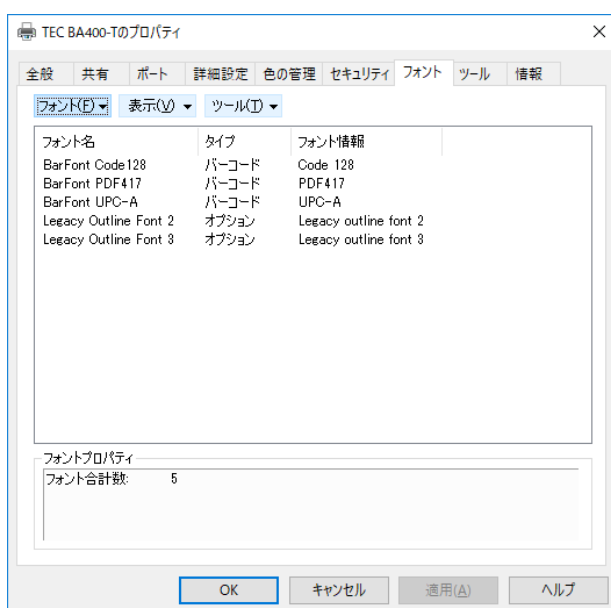
3.5 フォントの設定

「フォント」タブを選択すると、バーコードフォントの登録が行えます。アプリケーションで使用するバーコードフォントがリストにない場合、[フォント] - [新規バーコードフォント] を押して、「バーコードフォント」ダイアログボックスにてバーコード種類、比率、細バーの長さなどを設定して追加登録できます。

注意：* バーコードフォントは、プリンタドライバ毎に登録してください。また、共有プリンタへ印刷する場合においても、印刷指示を行うクライアントコンピュータと共有プリンタを設定したコンピュータそれぞれに、バーコードフォントを登録してください。共有プリンタ側にだけバーコードフォントを登録しても、クライアント側とバーコードフォントを共有して使用することはできません。

[インポート]、[エクスポート] 機能を使用すると、他のプリンタドライバへの登録が容易に行うことができます。『ドライバ』を参照してください。

* バーコードフォントのデータとして漢字データを使用する場合は、[ツール] - [設定] - [プリンタオプション] - [コマンドプロトコル] - [制御コード] を [ESC / LF / NUL] に設定してください。



□ フォント(F)

バーコードフォントのメンテナンスを行います。

➤ 新規バーコードフォント

バーコードフォントを新規に登録します。登録数の制限はありません。

➔ 『3.5.1 バーコードフォントの編集』を参照してください。

➤ 編集

登録済みのフォントの設定内容を変更します。

編集するフォントを選択し、[フォント(F)] - [編集]、または右クリック - [編集] を選択します。

➤ 削除

登録済みのフォントを削除します。

削除するフォントを選択し、[フォント(F)] - [削除]、または右クリック - [削除] を選択します。

□ 表示(V)

[フォント] タブにて表示するフォントの種類を“プリンタフォント”、“バーコードフォント”で設定します。チェックされたフォントの種類を表示します。

補足：[フォント] タブに表示するフォントは、当該プリンタドライバで使用可能なフォントのみです。

同一のコンピュータ上にある他のプリンタドライバで登録したバーコードフォントは表示されません。

□ ツール(T)

デバイスフォント関連の各種設定とプリンタドライバのオプション機能を設定します。

➤ プリンタ内蔵フォント

アウトラインフォントオプション

<アウトラインフォントをデバイスフォントとして使用可能とする(S)>

アウトラインフォントを使用可能にするための設定です。無効にした場合、アプリケーションでアウトラインフォントが使用できなくなります。

<文字幅の縮小フォント (Cond.) と拡大フォント (Exp.) を使用する(C)>

文字幅を拡大縮小したアウトラインフォントを使用可能にするための設定です。

<任意に指定した倍率 (%) のフォントを使用する(F)>

文字幅を任意の倍率に拡大縮小したアウトラインフォントを使用可能にするための設定です。サポート外の機能となっております。デフォルトのままご使用ください。

<倍率(R)>

アウトラインフォントの文字幅を任意の倍率に拡大縮小するときの倍率を設定します。サポート外の機能となっております。デフォルトのままご使用ください。

ビットマップフォントオプション

<ビットマップフォントをデバイスフォントとして使用可能とする(B)>

ビットマップフォントを使用可能にするための設定です。無効にした場合、アプリケーションでビットマップフォントが使用できなくなります。

<疑似アウトラインフォント(I)>

ビットマップフォントをアウトラインフォントと同じフォントサイズで指定するための設定です。サポート外の機能となっております。デフォルトのままご使用ください。

<拡大フォントを使用する(M)>

ベースフォントを拡大した倍率のビットマップフォントを使用可能にするための設定です。

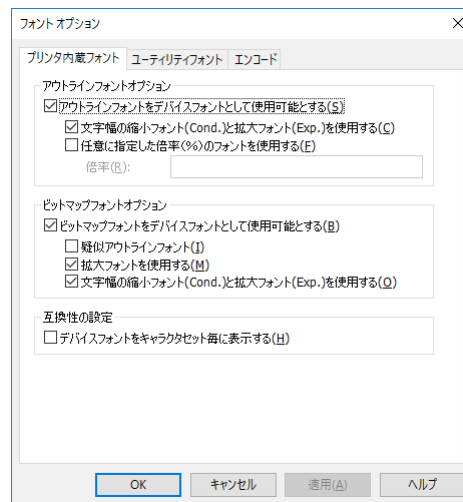
<文字幅の縮小フォント (Cond.) と拡大フォント (Exp.) を使用する(C)>

文字幅を拡大縮小したビットマップフォントを使用可能にするための設定です。

互換性の設定

<デバイスフォントをキャラクタセット毎に表示する(H)>

プリンタフォントに設定されたデータを個別のコードページでエンコードして印刷するための設定です。



▶ ユーティリティフォント

ユーティリティフォントオプション

<ユーティリティフォントをデバイスフォントとして使用可能とする(U)>

ユーティリティフォントを使用可能にするための設定です。

無効にした場合、アプリケーションでユーティリティフォントが使用できなくなります。

<バーコードフォントと RFID フォントを使用する(B)>

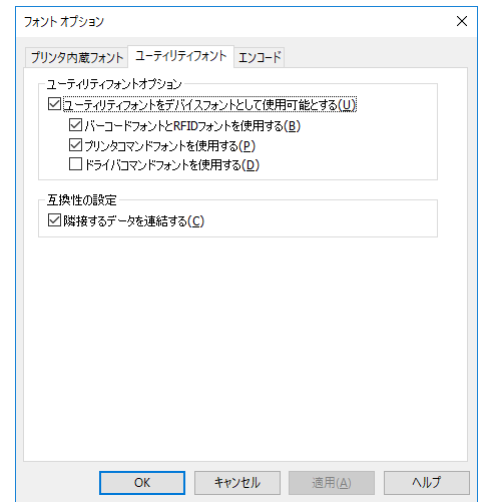
バーコードフォントと RFID フォントを使用可能にするための設定です。但し、RFID フォントはサポート外の機能になります。

<プリンタコマンドフォントを使用する(P)>

指定されたデータをそのままの形式でプリンタに送信するフォントを使用可能にするための設定です。

<ドライバーコマンドフォントを使用する(D)>

既定の形式で指定されたデータからコマンドを生成するフォントを使用可能にするための設定です。サポート外の機能となっております。デフォルトのままご使用ください。



互換性の設定

<隣接するデータを連結する(C)>

Office の Word や PowerPoint 等の特定のアプリケーションで 1 つのバーコードフォントが複数のバーコードで印刷されることを防ぐための設定です。

先頭または終端にスペースが入ったデータをバーコードフォントで印字した場合、先頭と終端のスペースがデータから削除されます。

また、同じバーコードフォントに指定され、Y 座標の位置が同じデータは全て連結されます。

デフォルトは有効に設定されます。バーコードが正常に発行されるアプリケーションでは無効にすることができます。

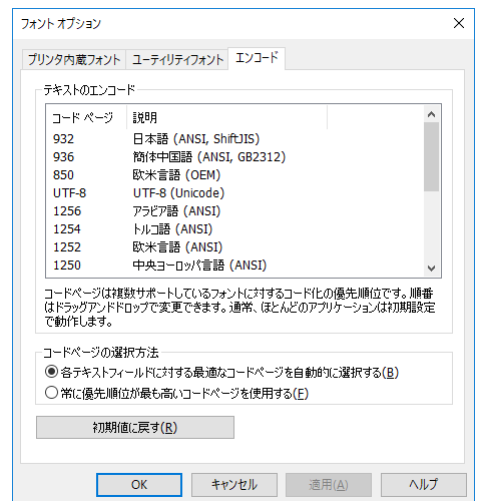
▶ エンコード

プリンタフォントで印刷するデータのエンコード種別を設定します。プリンタで設定された文字コードと異なる場合、正常に印刷されません。

サポート外の機能となっております。デフォルトのままご使用ください。

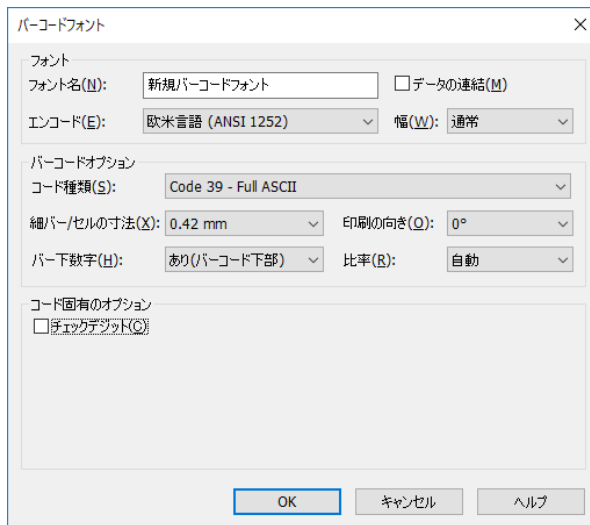
プリンタの文字コードが PC-850、PC-852、Arabic の場合、表示通りにプリンタフォントとして印刷できます。但し、プリンタの文字コード表で対応されていない文字はプリンタフォントとして処理されません。

プリンタの文字コードが PC-850、PC-852、Arabic 以外の場合、表示通りにプリンタフォントとして印刷できない文字や、プリンタフォントとして処理されない文字があります。外部機器 I/F 仕様書に記載されたコード表の文字のみプリンタフォントで使用可能です。



3.5.1 バーコードフォントの編集

新規登録の場合は [フォント(F)] - [新規バーコードフォント]、編集する場合は編集するフォントを選択し、[フォント(F)] - [編集]、または右クリック → [編集] により、バーコードフォントのメンテナンスが行えます。



■ フォント

□ フォント名(N)

“新規”の場合は、バーコードフォントの名前を任意に設定できます。
英数字、漢字、カナで入力します。

□ キャラクタ設定(E)

文字列をエンコードするときのコードページを設定します。漢字などの2バイトコードを使用する場合、“日本語”を選択します。

□ データの連結(M)

“データの連結(M)”をチェックすると、アプリケーション内で文字テキストにバーコードフォントを指定した場合、複数行にまたがって入力されたテキストを1つのバーコードとして扱うことができます。

補足：ページ内で同じフォントに指定した文字テキストは全て連結され、1つのバーコードとして印刷されます。

□ 幅(W)

アプリケーション内で画面に表示する文字テキストの文字幅を指定します。

補足：バーコードフォントに指定した文字テキストがページにおさまらない場合に設定してください。アプリケーションによっては有効でない場合があります。有効にならないアプリケーションや大量の文字テキストを1つのバーコードにする場合、“データの連結(M)”を使用してください。

■ バーコードオプション

□ コード種類(S)

バーコードまたは2次元コードの種類を選択します。

➤ コード種類

- “Aztec”
- “Code 39 - Full ASCII”
- “Code 39 - Regular”
- “Code 93”
- “Code 128”
- “Codabar (NW-7)”
- “Data Matrix (データコード)”
- “EAN/JAN-8”
- “EAN/JAN-13”
- “GS1 Composite”
- “GS-1 DataBar (RSS)”
- “Interleaved 2-of-5(ITF)”
- “Japanese 4-State Customer Code”
- “KIX 4-State Customer Code”
- “MaxiCode”
- “MicroPDF417”
- “Micro QR Code”
- “MSI Plessey”
- “PDF417”
- “QR Code”
- “Royal Mail 4-State Customer Code”
- “UPC-A”
- “UPC-E”
- “US POSTNET (Zip, Zip+4, & DPBC)”
- “USPS Intelligent Mail (4-State Customer Code)”

□ 細バー／セルの寸法(X)

細バーまたは1セルの幅を設定します。(プリンタの機種や選択したコード種類により異なります。)

補足：バーコードの高さは、アプリケーションのフォントのサイズ指定により調整できます。

□ バー下数字(H)

“あり (バーコード下部)”、“なし” を選択します。(コード種類により設定できない場合があります。)

□ 印刷の向き(O)

バーコードの印刷の向きを指定します。

- * 0°
- * 90°
- * 180°
- * 270°

□ 比率(R)

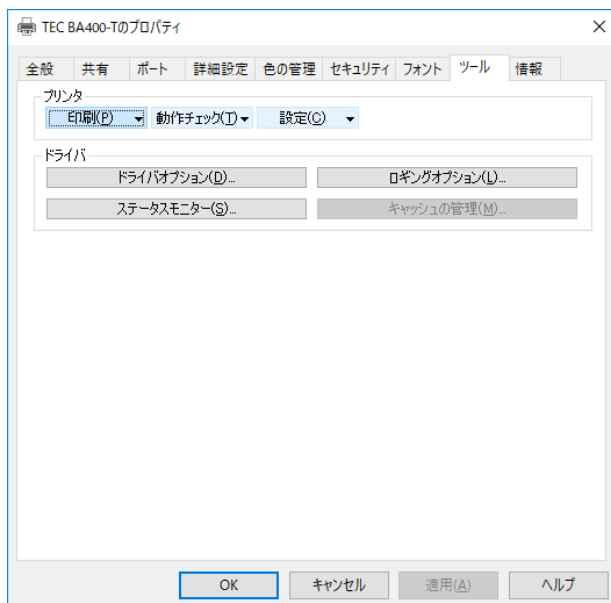
細バー：太バーの比率を、“自動” または各比率から選択します。(コード種類により設定できない場合があります。)

■ コード固有のオプション

“コード固有のオプション” では、選択したコード種類固有の項目を設定できます。

3.6 ツール

「ツール」タブをクリックして、プリンタの動作確認やセッティングを行います。また、オプション機能の設定を行います。



■ プリンタ

□ 印刷(P)

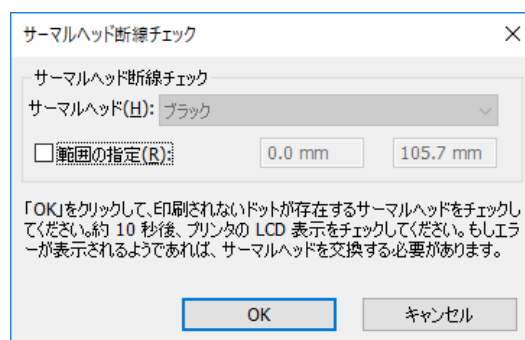
- テストラベル
印刷設定で設定された印刷条件（用紙サイズ、位置微調、センサー種別等）で、“TEST”というイメージを1枚発行します。
- 白紙
印刷設定で設定された印刷条件（用紙サイズ、位置微調、センサー種別等）で、白紙を1枚発行します。

□ 動作チェック(T)

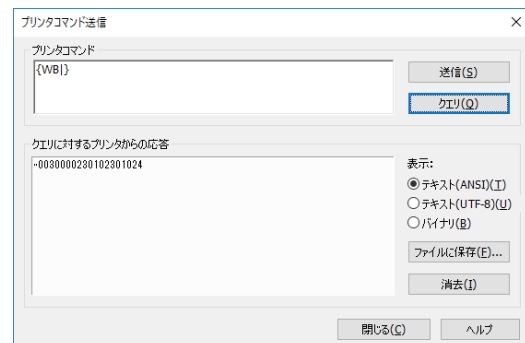
プリンタの機種により使用できる機能が異なります。

- フィード
印刷設定で設定された印刷条件（用紙サイズ、位置微調、センサー種別等）で、用紙を1枚紙送りします。
- カット
現在の位置でカットします。
- プリンタ情報の読み込み
プリンタから取得したバージョン情報とオプション情報を表示します。
プリンタの機種や通信により、取得できる情報が異なります。
サポート外の機能となっております。
- XML データプリントファイルを管理する
プリンタに登録されているフォーマット、グラフィック、フォントなどのファイルを管理できます。
サポート外の機能となっております。
- プリンタのリセット
プリンタがリセットされます。
RS-232C の場合のみ使用可能です。

- サーマルヘッド断線チェック
サーマルヘッドの断線チェックを行います。



- プリンタコマンド送信
記述したプリンタのコマンドをプリンタに送信します。また、[クエリ(Q)] ボタンにて、記述したプリンタのコマンドをプリンタに送信後、プリンタから取得したステータスを表示します。
[クエリ(Q)] ボタンは、プリンタと双方向通信可能な状態の時に機能します。また、プリンタがステータスを返すコマンドのみ有効です。
プリンタのコマンドについては、外部機器インターフェースマニュアルをご覧ください。



- ファイルをプリンタに送信
コマンドファイルのデータをプリンタへ送信します。

□ 設定(C)

- プリンタオプション

- ステータス自動送信を有効にする(S)
印字終了や各種エラー発生時にプリンタから自動的に送られてくるステータスの応答の有無を設定します。

注意：本製品はこのステータスを使用していません。ステータスが必要ない場合は無効にしてください。

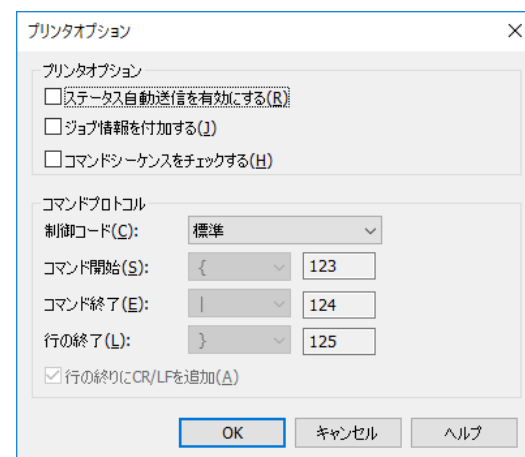
- ジョブ情報を付加する(J)
プリンタから SNMP で取得するジョブ情報を印刷するジョブに付加するかどうかを設定します。ネットワークツールで表示される情報です。

注意：デフォルトは無効に設定されています。SNMP でジョブ情報が必要ない場合は変更しないでください。

- コマンドシーケンスをチェックする(H)
プリンタが受信したコマンドに抜けがないかをチェックするコマンドを付加するかどうかを設定します。B-EV4-T、B-EV4-G で使用可能な機能です。

- コマンドプロトコル
プリンタコマンドで使用する制御コードを設定します。プリンタで設定された制御コードを設定してください。

注意：デフォルトは「標準」に設定されています。デバイスフォントのデータとして漢字データを使用した場合、本設定を変更しないまま印刷するとプリンタがエラーになります。
プリンタフォント、2次元バーコードにて漢字コードを指定する場合は、「[ESC / LF / NUL]」に設定してください。



- Bluetooth 通信設定を有効にする
仮想 COM ポートで Bluetooth 通信を行う場合に有効にします。

- リンク切断前 Wait 時間
印刷データ送信後から Bluetooth リンク切断までの待機時間設定します。

プリンタオプション

プリンタオプション

ステータス自動送信を有効にする(R)

ジョブ情報を付加する(J)

コマンドシーケンスをチェックする(H)

コマンドプロトコル

制御コード(C): 標準

コマンド開始(S): { 123

コマンド終了(E): | 124

行の終了(L): } 125

行の終りにCR/LFを追加(A)

プリンタとの通信

Bluetooth通信設定を有効にする

リンク切断前Wait時間: 1000 ms

OK キャンセル ヘルプ

➤ メモリ設定

プリンタの内蔵メモリ、または、拡張メモリの登録エリアを指定された容量にアロケートします。[OK] をクリックしたときにプリンタに設定します。

選択したメモリの容量がプリンタのメモリと異なる場合、プリンタは優先順位の高い領域から自動的にアロケートを行います。

メモリ設定

実装メモリ
内蔵メモリ(I): 3072 K
拡張メモリ(E): 未実装

メモリ割り当て
場所(L): 内部フラッシュメモリ
使用可能サイズ(V): 3072
ビットマップ外字登録領域(E): 1024
TrueTypeフォント登録領域(I): 1024
PCセーブ(フォーマット)登録領域(Q): 1024
BASICファイル登録領域(B): 0
フォーム登録領域(M): 0
グラフィック登録領域(G): 0

OK キャンセル ヘルプ

➤ フラッシュメモリの初期化

選択したフラッシュメモリの領域を初期化（フォーマット）します。[OK] をクリックしたときにプリンタに設定します。

フラッシュメモリの初期化

フォーマット指定
種類(I): フラッシュメモリ
場所(L): 内部フラッシュメモリ
範囲(R): 全領域

OK キャンセル ヘルプ

➤ リボン設定

リボンモータの駆動電圧を調整します。印刷中にリボンにシワが発生しするときは、リボンモータの駆動電圧を調整してください。設定を有効にして、[OK] をクリックしたときにプリンタに設定します。

リボン設定

リボンの色(R): ブラック
リボンの種類
タイプ(I): 通常
幅(D):

リボンモータ駆動電圧微調
 設定(S) 巻取り側(E): 0 送り側(B): 0

OK キャンセル ヘルプ

➤ 印字開始位置微調

各色毎に印字開始1枚目から10枚目までの印字開始位置を副走査方向に微調します。本設定は、印字を開始してから用紙の搬送が安定するまでの数枚の印字位置を補正します。

リボン設定

リボンの色(R): 1: イエロー
リボンの種類
タイプ(I): 標準リボン
幅(D): 109 mm

リボンモータ駆動電圧微調
 設定(S) 巻取り側(E): 0 送り側(B): 0

OK キャンセル ヘルプ

ドライバ

□ ドライバオプション(D)

➤ 管理

プリンタドライバの設定情報をファイルに保存できます。保存したファイルから設定情報を読み込み、プリンタドライバの設定に反映させます。他の PC へ設定する時やバージョンアップの時に設定を引継ぐことができます。

インポート(I)

チェックが付いた項目の情報を“ドライバ設定ファイル (*.sds)”から読み込み、プリンタドライバの設定に反映させます。旧バージョンで保存した“6.5 ドライバ設定ファイル (*.sfm、*.sbf、*.spr、*.sdm)”も使用可能です。但し、一部の項目について引継がれない情報があります。

エクスポート(E)

チェックが付いた項目の情報を“ドライバ設定ファイル (*.sds)”に保存します。

ドライバの設定を初期化する(R)

チェックが付いた項目の情報をインストール時の初期値の設定に戻します。

オプション： プリンタオプション、ドライバオプション、フォントオプション等のプロパティで設定した情報

ネットワーク設定： ドライバオプションのネットワーク設定情報

バーコードフォントと RFID フォント： 登録されたバーコードフォント情報

プリセットリスト： 登録されたプリセット情報

印刷設定： 用紙、グラフィック、印刷条件の設定、オプションの各タブの印刷設定情報

用紙サイズ： 登録された用紙サイズ情報

➤ ネットワーク設定

共有プリンタをネットワークプリンタとしてインストールした場合、サーバーとクライアント間で設定情報やステータス情報を共有することができます。

サポート外の機能となっております。ネットワークプリンタとして使用する場合、インストールの“共有プリンタにて印刷する場合”の手順通りに設定を行ってください。

補足：クライアント PC は [双方向通信サポート] を無効にしてください。

➤ 地域のオプション

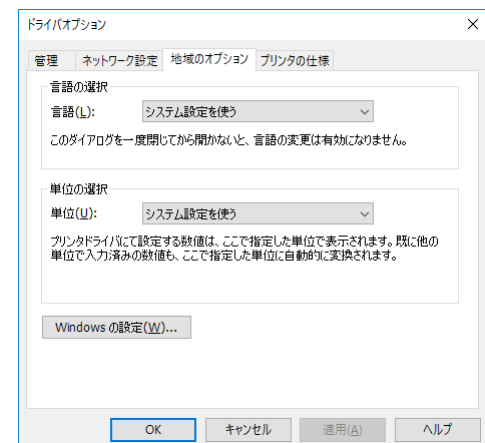
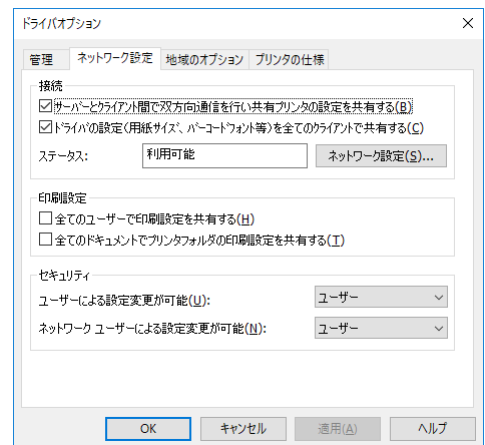
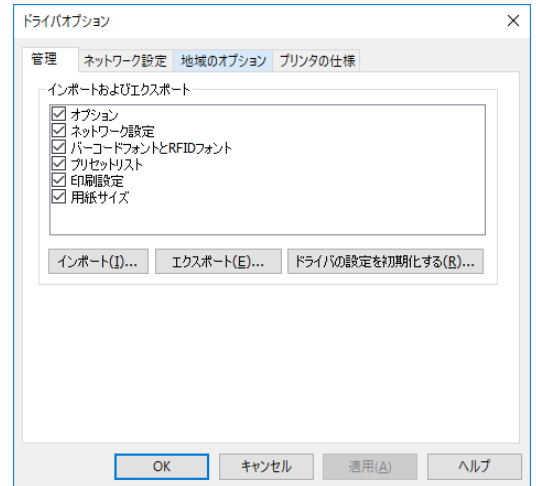
表示言語と単位が設定できます。

言語の選択

表示に使用する言語を選択します。

* システム設定を使う

- | | |
|------------------|------------------|
| * 英語 | * イタリア語 |
| * オランダ語 | * ギリシャ語 |
| * スウェーデン語 | * スペイン語 |
| * タイ語 | * チェコ語 |
| * デンマーク語 | * トルコ語 |
| * ドイツ語 | * ノルウェー語 |
| * ハンガリー語 | * フィンランド語 |
| * フランス語 | * ポルトガル語 (ブラジル語) |
| * ポルトガル語 (ポルトガル) | * ポーランド語 |
| * ロシア語 | * 中国語 (簡体字) |
| * 中国語 (繁体字) | * 日本語 |



- * 韓国語

単位の選択

使用する単位を選択します。

- * システム設定を使う
- * インチ
- * ミリメートル
- * センチメートル

Windows の設定

Windows の“地域の言語のオプション”を表示します。

▶ プリンタの仕様

印字不可領域

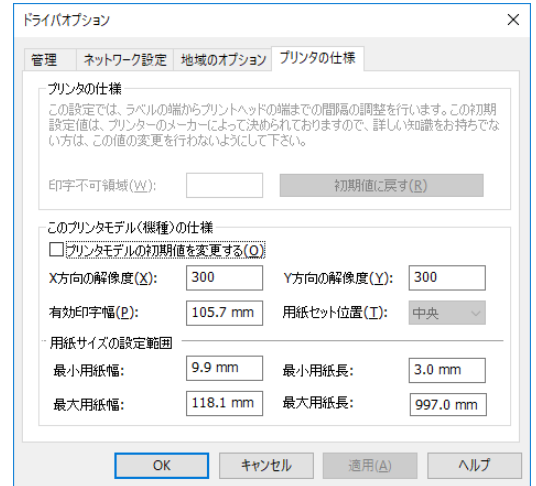
構造的に印刷できない領域を設定します。

サポート外の機能となっております。デフォルトのままご使用ください。

このプリンタモデル（機種）の仕様

プリンタの解像度や用紙サイズ等の仕様を設定します。この値を変更するとプリンタの仕様に合わなくなり、正常な印刷が行えなくなります。

サポート外の機能となっております。デフォルトのままご使用ください。



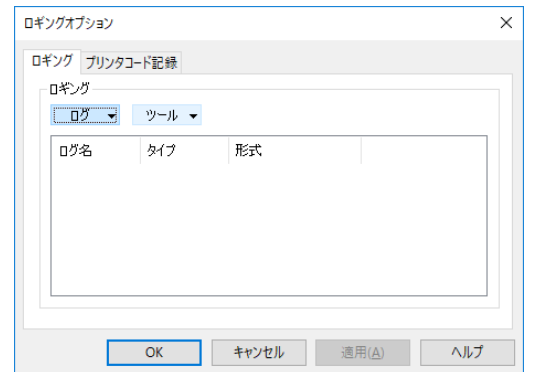
□ ログイングオプション(L)

印刷時のログを記録することができます。「双方向通信サポート」を有効にした場合のみ使用可能です。

▶ ログイング

印刷したページやジョブの履歴をファイルやイベントログとして記録することができます。

[ツール(T)] の [レガシーログの追加] で作成したデフォルトのレガシーログ以外はサポート外の機能となっております。



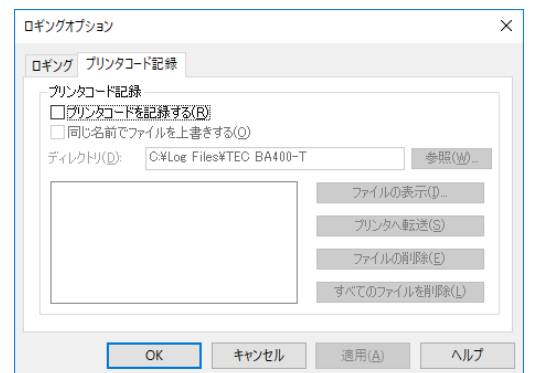
※レガシーログは txt 形式、または csv 形式で保存されます。Max サイズにつきましては、これらファイルフォーマットおよび出力先に指定しているファイルシステムの仕様に準じます。

空き容量が無い場合につきましても txt/csv ファイル、WindowsOS の仕様に準じる動作となり、書き込みのためのスペース不足というエラーとなります。

▶ プリンタコード記録

印刷したコマンドデータをファイルとして記録することができます。

[プリンタコードを記録(R)] にチェックすると、指定したディレクトリに印刷するたびにファイルを作成します。ハードディスクを圧迫しないように、作成したファイルは定期的な削除してください。

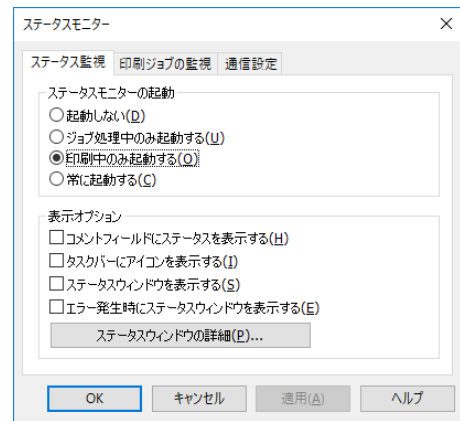


□ ステータスマニター (S)

プリンタの状態を監視します。

B-SX5-JP、B-SA4T-JP、B-SA4G-JP、B-858-R、B-EP2D L-G-JP、B-EP4DL-T-JP、B-SX8T-JP-R、B-EX4T1-T、B-EX4T3-H、B-LV4-G/T、B-LP2D-G、B-EX6T1-G/T、BA400-T、BA400-G、B-FP2D-G、BV400-T、BV400-G で使用可能です。ステータスマニターの使用条件を以下に示します。

- コンピュータとプリンタをシリアルケーブルで接続した場合
- コンピュータとプリンタをプリンタケーブルで接続し、プリンタの設定を“CENTRO. MODE”を「ECP」、「PLUG & P LAY」を「ON」に指定した場合 (B-SX5-JP のみ)
- コンピュータとプリンタを USB ケーブルで接続した場合
- コンピュータとプリンタを LAN ケーブルで接続した場合



■ ステータスマニターの起動

ステータスマニターの起動方法を選択します。

起動しない(D)： プリンタの状態を監視しません。

ジョブ処理中のみ起動する(U)： 印刷キューにジョブがある間プリンタの状態を監視します。

印刷中のみ起動する(O)： 印刷中のみプリンタの状態を監視します。

常に起動する(C)： 常時プリンタの状態を監視します。

■ 表示オプション

□ コメントフィールドにステータスを表示する(H)

チェックすると“プリンタと FAX” ウィンドウでのコメント欄にプリンタの状態を表示します。サポート外の機能となっております。デフォルトのままご使用ください。

□ タスクバーにアイコンを表示する(I)

チェックするとタスクバーにステータスマニターのアイコンを表示します。プリンタの状態を周期的に監視します。

□ ステータスウィンドウを表示する(S)

チェックするとステータスマニターのステータスウィンドウを表示します。チェックを外すか、右上の [×] ボタンでウィンドウの表示を閉じます。



プリンタ： ステータスマニターが監視しているプリンタ名を表示します。

ポート： ステータスマニターが監視している出力ポートです。プリンタが印刷に使用しているポートです。

状態： プリンタの状態を表示します。プリンタ本体の LCD 表示と同じ意味合いのメッセージを表示します。ただし、プリンタの状態のみ表示する機能です。残枚数等の詳細は表示できません。

<プリンタの状態>

- | | | |
|-----------------|-----------------|----------------|
| * 準備完了 | * ポーズ中 | * 印刷中 |
| * 準備完了、リボンニアエンド | * ポーズ中、リボンニアエンド | * 印刷中、リボンニアエンド |
| * 準備完了、用紙ニアエンド | * ポーズ中、用紙ニアエンド | * 印刷中、用紙ニアエンド |
| * コマンドエラー | * プリンタオフライン | * 用紙がありません |
| * リボンがありません | * ヘッドが開いています | * 用紙詰まり |
| * カッターエラー | * リボンエラー | * センサーエラー |
| * カバーが開いています | * RFID 書込みエラー | * RFID エラー |

- * ASF パワーオフ
- * ASF モーターエラー
- * ヘッド冷却中
- * ラベルあり
- * サーマルヘッド過熱エラー
- * スタッカーフル
- * バッテリー過熱エラー
- * Bluetooth 設定エラー
- * モーター温度警告
- * メモリが足りません
- * リジェクトジャム
- * リジェクトエラー
- * ASF 接続エラー
- * 消去機エラー
- * 用紙給紙中
- * I/O エラー
- * 周囲温度エラー
- * スタッカーエラー
- * ローバッテリー
- * バッテリー警告
- * メモリ書込みエラー
- * ビジー
- * リジェクトフル
- * ASF カバーオープン
- * 消去機カバーオープン
- * ウォーミングアップ
- * モーター過熱エラー
- * 巻き取りオーバーフロー
- * バッテリー温度エラー
- * 充電エラー
- * ヘッド温度警告
- * メモリエラー
- * RFID 設定エラー
- * シャッターエラー

<エラー復帰方法>

“紙がありません”等、プリンタにエラーが発生した場合は、プリンタ側でエラーの処置をした後、プリンタ本体の [RESTART] キーを押してください。

エラー復帰方法の詳細については、プリンタの取扱説明書をご覧ください。

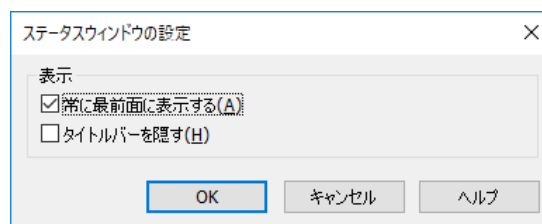
- エラー発生時にステータスウィンドウを表示する(E)

チェックすると印刷中にエラーが発生したときに、ステータスウィンドウを表示します。プリンタの状態を周期的に監視します。

■ ステータスウィンドウの設定

- 常に最前面に表示する(A)

チェックするとステータスウィンドウを常に最前面で表示します。

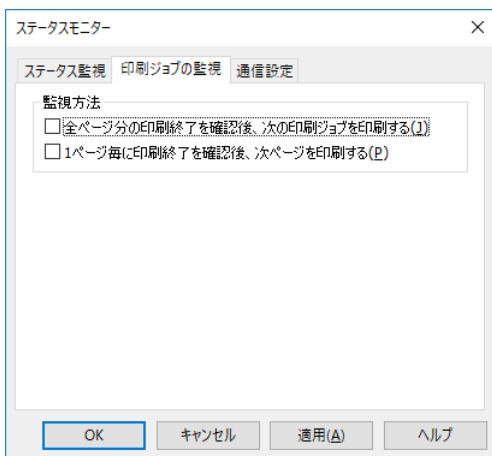


- タイトルバーを隠す(H)

チェックするとステータスウィンドウのタイトルバーを非表示にします。

■ 印刷ジョブの監視

印刷ジョブの監視方法を設定します。チェックすると印刷終了を確認しながら印刷を行います。サポート外の機能となっております。デフォルトのままご使用ください。



■ 通信設定

ステータス監視におけるタイムアウトとポーリング間隔を設定します。
デフォルトのままご使用ください。

項目	設定値	単位
送信タイムアウト(S)	30000	ms
受信タイムアウト(R)	30000	ms
ジョブ間(D)	1000	ms
アイドル時(I)	5000	ms

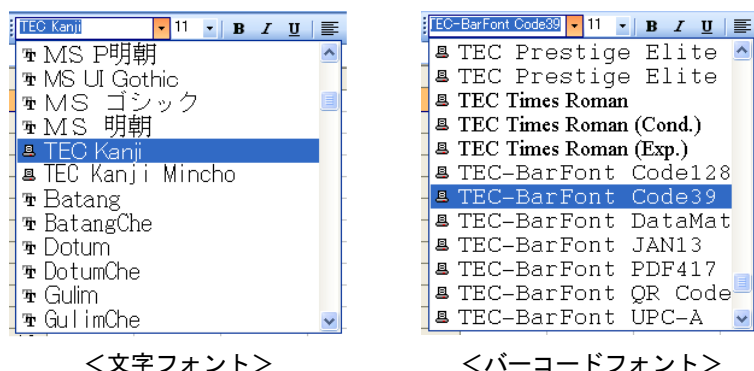
注意： * プリンタドライバのアンインストール時、および印刷するポート切り換え時には、必ずステータスマニターを停止してください。

- * 共有プリンタとして使用している場合は、クライアントではステータスマニターが表示しません。
- * ステータスマニターを表示すると、プリンタの「ON LINE」LED が周期的に点滅します。プリンタの故障ではありません。
- * B-SA4T-JP、B-SA4G-JP、B-858-R、B-EP2DL-G-JP、B-EP4DL-T-JP、B-SX8T-JP-R、B-EX4T1-T、B-EX4T3-HS13-R/HS23-S、B-LV4D-GS15-R、B-LP2D-G、B-EX6T1-T、B-EX6T1-G、BA400-T、BA400-G、B-FP2D-G、BV400-T、BV400-G 以外のプリンタをご使用の場合は、ステータスマニターは起動しないください。
- * ステータスマニターが“オフライン状態”を検出するには時間がかかります。(最低30秒以上)
- * 「タスクバーにアイコンを表示する(I)」と「ステータスウィンドウを表示する(S)」を使用した場合に、PC 起動時にステータスマニターが正常に動作しない環境があります。起動時にオフラインが発生する PC では使用しないください。

3.7 プリンタフォントの指定

アプリケーションでプリンタに内蔵する文字フォントや、バーコード・2次元コードを使用するときは、文字（数字）データのフォント種類を“TEC Kanji”などのプリンタのプリンタフォントに指定してください。

■ アプリケーション上のフォント選択画面例



補足：* 当社製バーコードプリンタ用のプリンタフォント（バーコード・2次元コードフォント）の名称には、“TEC Kanji”のように頭に“TEC”という名がついています。“TEC ****”フォントを選択すると、画面上の表示は印刷結果と異なりますが、プリンタ内蔵フォントにより印刷されます。

* プリンタフォントを使用すると、印刷スループットの向上が見込まれます。

* アプリケーション上に表示されるプリンタ文字フォント（バーコード含む）は、実際に印字される文字、バーコードと異なります。大きさも実寸と異なります。

■ バーコードフォント プログラミング例（Visual Basic 5.0/6.0）

注意：サンプルプログラムは、バーコードフォントの使用法の動作と説明するためのものですので、動作を保証するものではありません。サンプルプログラムのコードを利用される場合は、お客様の責任において動作確認を行ってください。

登録されているバーコードフォントのフォント名が、“BarFont Code39”の場合の記述例。

```
Private Sub Command1_Click()  
Printer.FontName = "TEC-BarFont Code39"  
Printer.FontSize = 36  
Printer.FontBold = False  
Printer.FontItalic = False  
Printer.CurrentX = 1000  
Printer.CurrentY = 1000  
Printer.Print "1234567"  
Printer.EndDoc  
End Sub
```

■ バーコードフォント プログラミング例（Visual Basic 2010）

注意：サンプルプログラムは、バーコードフォントの使用法の動作と説明するためのものですので、動作を保証するものではありません。サンプルプログラムのコードを利用される場合は、お客様の責任において動作確認を行ってください。

登録されているバーコードフォントのフォント名が、“TEC-BarFont Code128” の場合の記述例。

Win32API の4つの関数 CreateFont、SelectObject、TextOut、DeleteObject を宣言します。

```
<System.Runtime.InteropServices.DllImportAttribute("gdi32.dll")> _  
Friend Shared Function CreateFont( _  
ByVal nHeight As Integer, _  
ByVal nWidth As Integer, _  
ByVal nEscapement As Integer, _  
ByVal nOrientation As Integer, _  
ByVal fnWeight As Integer, _  
ByVal fdwItalic As Boolean, _  
ByVal fdwUnderline As Boolean, _  
ByVal fdwStrikeOut As Boolean, _  
ByVal fdwCharSet As Integer, _  
ByVal fdwOutputPrecision As Integer, _  
ByVal fdwClipPrecision As Integer, _  
ByVal fdwQuality As Integer, _  
ByVal fdwPitchAndFamily As Integer, _  
ByVal lpszFace As String) As IntPtr  
End Function
```

```
<System.Runtime.InteropServices.DllImportAttribute("gdi32.dll")> _  
Friend Shared Function SelectObject( _  
ByVal hObject As IntPtr, _  
ByVal hFont As IntPtr) As IntPtr  
End Function
```

```
<System.Runtime.InteropServices.DllImportAttribute("gdi32.dll")> _  
Friend Shared Function TextOut( _  
ByVal hdc As IntPtr, _  
ByVal nXStart As Integer, _  
ByVal nYStart As Integer, _  
ByVal lpString As String, _  
ByVal cbString As Integer) As Integer  
End Function
```

```
<System.Runtime.InteropServices.DllImportAttribute("gdi32.dll")> _  
Friend Shared Function DeleteObject(ByVal hObject As IntPtr) As Boolean  
End Function
```

クラスメンバ変数として mFont を宣言します。

```
Dim mFont As IntPtr
```

論理フォントを作成しデバイスコンテキストに設定後、TextOut 関数にてバーコードフォントを描画します。本サンプルコードでは PrintDocument クラスによる印刷方法を解説します。PrintDocument クラスの PrintPage イベントハンドラーに下記コードを記述します。

```
Dim hdc As IntPtr
hdc = e.Graphics.GetHdc()

BarFontName = "TEC-BarFont Code128"
BarFontSize = 300
hFont = CreateFont( _
BarFontSize, 1, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, BarFontName)
SelectObject(hdc, hFont)

BarcodeData = "ABCDEFG12345"
TextOut(hdc, 118, 236, BarcodeData, BarcodeData.Length)

DeleteObject(hFont)
e.Graphics.ReleaseHdc(hdc)
```

■ バーコードフォント プログラミング例 (Visual C# 2010)

注意：サンプルプログラムは、バーコードフォントの使用方法の動作と説明するためのものですので、動作を保証するものではありません。サンプルプログラムのコードを利用される場合は、お客様の責任において動作確認を行ってください。

登録されているバーコードフォントのフォント名が、“TEC-BarFont Code128” の場合の記述例。

Win32API の4つの関数 CreateFont、SelectObject、TextOut、DeleteObject を宣言します。

```
[System.Runtime.InteropServices.DllImport("gdi32.dll")]
private extern static System.IntPtr CreateFont(
    int nHeight, int nWidth, int nEscapement, int nOrientation, int fnWeight, bool fdwItalic,
    bool fdwUnderline, bool fdwStrikeOut, int fdwCharSet, int fdwOutputPrecision, int fdwClipPrecision,
    int fdwQuality, int fdwPitchAndFamily, string lpszFace);
```

```
[System.Runtime.InteropServices.DllImport("gdi32.dll")]
private extern static System.IntPtr SelectObject(System.IntPtr hObject, System.IntPtr hFont);
```

```
[System.Runtime.InteropServices.DllImportAttribute("gdi32.dll")]
private extern static int TextOut(IntPtr hdc, int nXStart, int nYStart, string lpString, int cbString);
```

```
[System.Runtime.InteropServices.DllImport("gdi32.dll")]
private extern static bool DeleteObject(System.IntPtr hObject);
```

クラスメンバ変数として mFont を宣言します。

```
IntPtr mFont;
```

論理フォントを作成しデバイスコンテキストに設定後、TextOut 関数にてバーコードフォントを描画します。本サンプルコードでは PrintDocument クラスによる印刷方法を解説します。PrintDocument クラスの PrintPage イベントハンドラーに下記コードを記述します。

```
IntPtr hdc = e.Graphics.GetHdc();
```

```
String BarFontName = "TEC-BarFont Code128";
int BarFontSize = 300;
mFont = CreateFont(BarFontSize, 1, 0, 0, 0, false, false, false, 0, 0, 0, 0, 0, BarFontName);
```

```
SelectObject(hdc, mFont);
String BarcodeData = "ABCDEFGH12345";
TextOut(hdc, 118, 236, BarcodeData, BarcodeData.Length);
DeleteObject(mFont);
e.Graphics.ReleaseHdc(hdc);
```

■ バーコードフォントの制限事項

- アプリケーションによっては、バーコードフォントが文字種類のリストに表示されない場合があります。
アプリケーションがプリンタフォントに対応していることを確認してください。
- アプリケーションのドキュメント上には、バーコードは表示されません。文字または記号で表示されます。
- バーコードの回転を指定すると、アプリケーションから指定した位置と実際に印刷される位置が異なります。実際に印刷して位置関係を調整してください。
- バーコードの高さは文字サイズのポイント数で指定します。
下記以外のポイント数を指定した場合は、下記のポイント数に置き換えられるか、または、他の文字フォントに置き換えられ、バーコードが印刷されない場合があります。

ポイント数	バー高さ (mm)	ポイント数	バー高さ (mm)
8	2.8	36	12.7
9	3.2	48	16.9
10	3.5	60	21.2
11	3.9	72	25.4
12	4.2	108	38.1
14	4.9	144	50.8
18	6.4	180	63.5
24	8.5	216	76.2
30	10.6		

- 漢字コードが含まれる場合、[ツール] - [設定] - [プリンタオプション] - [コマンドプロトコル] - [制御コード] を [ESC / LF / NUL] に設定してください。
- バーコードフォントで制御コード、特殊コードを使用する場合は以下の形式で指定してください。
“^”を使用する場合は“^^”を指定してください。“^”はエスケープキャラクタがデフォルトの場合になります。拡張機能ダイアログのユーザーコマンドでエスケープ文字を変更した場合は“^”を指定した文字に置換えてください。

制御コード	入力データ	制御コード	入力データ	特殊コード	入力データ
>@ (00H)	未対応	>P (10H)	^<DLE>	>0	>
>A (01H)	^<SOH>	>Q (11H)	^<DC1>		
>B (02H)	^<STX>	>R (12H)	^<DC2>		
>C (03H)	^<ETX>	>S (13H)	^<DC3>		
>D (04H)	^<EOT>	>T (14H)	^<DC4>		
>E (05H)	^<ENQ>	>U (15H)	^<NAK>		
>F (06H)	^<ACK>	>V (16H)	^<SYN>		
>G (07H)	^<BEL>	>W (17H)	^<ETB>		
>H (08H)	^<BS>	>X (18H)	^<CAN>		
>I (09H)	^<HT>	>Y (19H)	^		
>J (0AH)	^<LF>	>Z (1AH)	^<SUB>		
>K (0BH)	^<VT>	>[(1BH)	^<ESC>		
>L (0CH)	^<FF>	>¥ (1CH)	^<FS>		
>M (0DH)	^<CR>	>] (1DH)	^<GS>		
>N (0EH)	^<SO>	>^ (1EH)	^<RS>		
>O (0FH)	^<SI>	>_ (1FH)	^<US>		

- バーコードフォント(Code 128)で特殊コードを使用する場合は以下の形式で指定してください。

特殊コード	入力データ
>0	>
>1	^
>2	^3
>3	^2
>4	^s or ^S
>5	^c or ^C
>6	^b or ^B
>7	^a or ^A
>8	^1

- GS1 DataMatrix のデータの区切り文字として FNC1を使用する場合は“^1”を指定してください。

■ 漢字フォント“TEC Kanji”の指定サイズと実際に印字される文字サイズの比較表

単位：ポイント

305dpi		300dpi	
指定サイズ	印字サイズ	指定サイズ	印字サイズ
1.0 ~ 2.0	1.9	1.0 ~ 2.5	1.9
2.5 ~ 3.0	2.8	3.0 ~ 3.0	2.9
3.5 ~ 5.0	3.8	3.5 ~ 5.0	3.8
5.5 ~ 7.0	5.6	5.5 ~ 7.0	5.8
7.5 ~ 9.0	7.5	7.5 ~ 9.0	7.7
9.5 ~ 10.0	9.4	9.5 ~ 10.5	9.6
10.5 ~ 14.0	11.3	11.0 ~ 14.5	11.5
14.5 ~ 16.0	15.1	15.0 ~ 16.5	15.4
16.5 ~ 18.0	16.9	17.0 ~ 18.5	17.3
18.5 ~ 21.5	18.8	19.0 ~ 22.0	19.2
22.0 ~ 27.0	22.6	22.5 ~ 27.5	23.0
27.5 ~ 32.5	28.2	28.0 ~ 33.0	28.8
33.0 ~ 50.0	33.9	33.5 ~ 50.0	34.6

203dpi		600dpi	
指定サイズ	印字サイズ	指定サイズ	印字サイズ
1.0 ~ 3.5	2.8	1.0 ~ 1.0	1.0
4.0 ~ 5.0	4.3	1.5 ~ 1.5	1.4
5.5 ~ 7.5	5.7	2.0 ~ 2.5	1.9
8.0 ~ 10.0	8.5	3.0 ~ 3.5	2.9
10.5 ~ 13.5	11.3	4.0 ~ 4.5	3.8
14.0 ~ 15.5	14.2	5.0 ~ 5.0	4.8
16.0 ~ 21.0	17.0	5.5 ~ 7.0	5.8
21.5 ~ 27.0	22.7	7.5 ~ 8.0	7.7
27.5 ~ 32.5	28.4	8.5 ~ 9.0	8.6
33.0 ~ 57.5	34.0	11.5 ~ 13.5	11.5
		14.0 ~ 16.5	14.4
		17.0 ~ 25.0	17.3

4. システム構成

本製品は、以下のシステム構成でご利用いただけます。

コンピュータ	DOS/V 機 (IBM PC-AT 互換機)
Windows	Microsoft Windows 11 / Server 2016 / Server 2019 / Server 2022
プリンタ	東芝テック製バーコードプリンタ
セントロ	セントロニクスケーブル
プリンタ・サーバー	EtherNet 用プリンタ・サーバー機器 B-SA4 / B-858-R / B-EP / B-EV4 / B-SX8T / B-EX4T1 / B-EX4T3 / KP-20 / B-LV4/ B-EX6T1 / BA400 / B-FP2D-G / BV400 / BX400 / BX600 / BX800 : 標準で使用可能

補足：* 本製品のインストール方法は、『インストール手順』をご覧ください。

注意：* プリンタ・サーバー機器をご使用の場合は、プリンタ・サーバー機器の説明書に従って接続ポートを設定してください。

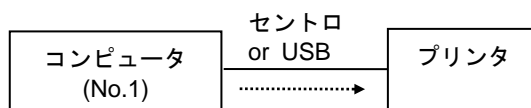
* ネットワークプリンタを使用される場合は、各 OS のインストールの『共有プリンタとして印刷する場合』をご参照ください。

4.1 システム構成例

■ 例1. Windows 搭載コンピュータとプリンタを直接接続して印刷する場合

コンピュータ (No.1) にプリンタドライバをインストールします。
(使用するポートは LPT1 (Local Port) or USB に指定する。)

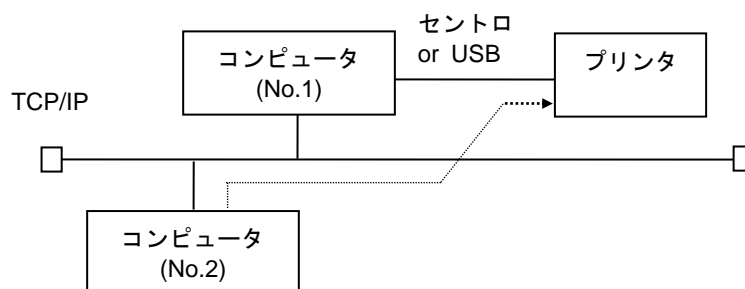
印刷データの流れ :→



■ 例2. Windows 搭載コンピュータから TCP/IP を経由し、もう一台の Windows 搭載コンピュータと直接接続しているプリンタから印刷する場合

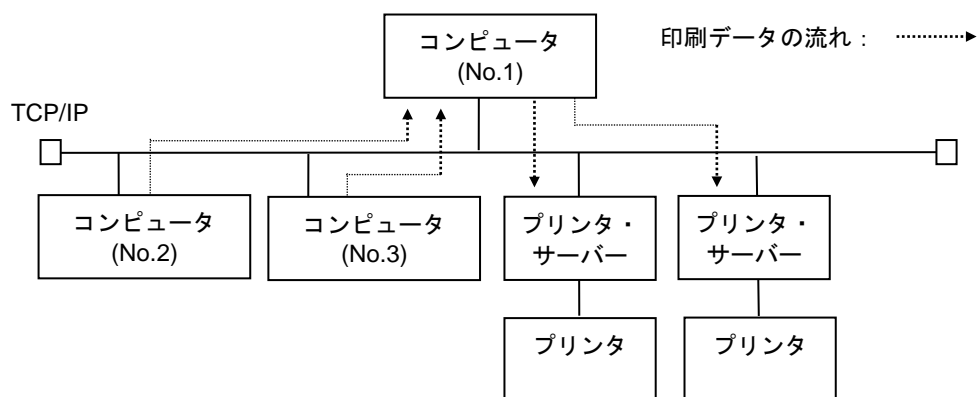
1. コンピュータ (No.1) にプリンタドライバをインストールします。
(使用するポートは LPT1 (Local Port) or USB に指定する。)
2. コンピュータ (No.1) のプリンタを、プリンタのプロパティで共有プリンタに指定します。
3. コンピュータ (No.2) にプリンタドライバをインストールします。
4. コンピュータ (No.1) に接続されたプリンタのネットワークパスを指定し、ネットワークプリンタとしてインストールします。

印刷データの流れ :→



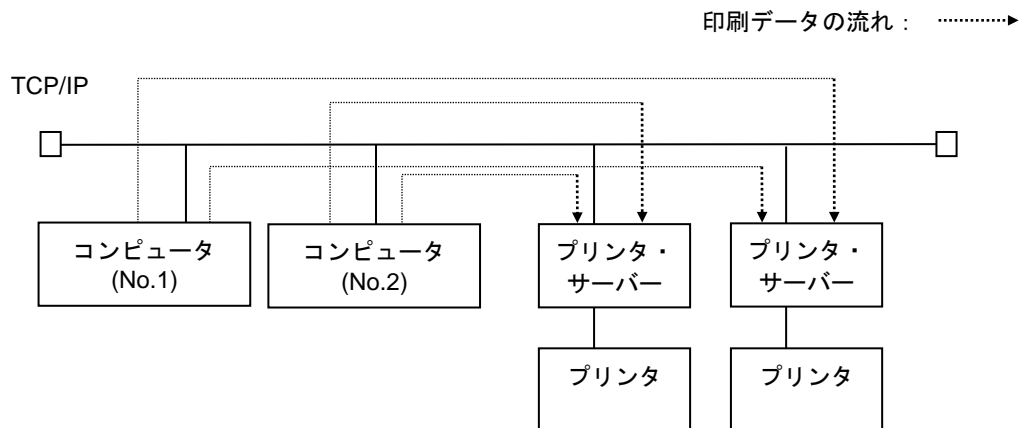
■ 例3. Windows 搭載コンピュータ (No.2) と Windows 搭載コンピュータ (No.3) から、TCP/IP を経由して Windows 搭載コンピュータ (No.1) に印刷データを送り、コンピュータ (No.1) から再度 TCP/IP を経由して複数台のプリンタで印刷する場合

1. コンピュータ (No.1) にプリンタドライバをプリンタの台数分インストールします。
2. コンピュータ (No.1) にインストールしたプリンタドライバのプロパティで、プリンタ・サーバーのアドレスを指定した LAN Port を追加します。
3. コンピュータ (No.1) からネットワーク上のプリンタを、プリンタのプロパティで共有プリンタに指定します。
4. コンピュータ (No.2) にプリンタドライバをインストールします。
5. コンピュータ (No.1) に接続されたプリンタのネットワークパスを指定し、ネットワークプリンタとしてインストールします。
6. コンピュータ (No.3) にプリンタドライバをインストールします。
7. コンピュータ (No.1) に接続されたプリンタのネットワークパスを指定し、ネットワークプリンタとしてインストールします。



■ 例4. Windows 搭載コンピュータ (No.1) と Windows 搭載コンピュータ (No.2) から、TCP/IP を経由して複数台のプリンタで印刷する場合

1. コンピュータ (No.1) にプリンタドライバをプリンタの台数分インストールします。
2. プリンタ・サーバーのアドレスを指定した LAN Port を追加します。
(LAN Port の追加は、プリンタ・サーバー固有の設定ユーティリティなど、他のソフトウェアにて行ってください。)
3. コンピュータ (No.1) の印刷先のポートを、手順2で追加した LAN Port に指定します。
4. コンピュータ (No.2) にプリンタドライバをプリンタ台数分インストールします。
5. コンピュータ (No.2) にインストールしたプリンタドライバのプロパティで、プリンタ・サーバーのアドレスを指定した LAN Port を追加します。
6. コンピュータ (No.2) の印刷先のポートを、手順5で追加した LAN Port に指定します。



5. Standard TCP/IP Port の追加 / 削除

LAN インターフェースをご利用いただく場合、プリンタのシステムモードの “<7>IP ADDRESS” で次の設定を行ってください。

- * “PRINTER IP ADDRESS”、“GATEWAY IP ADDRESS”、“SUBNET MASK” に IP アドレスを設定
- * “SOCKET PORT” にポート番号を設定

設定した “PRINTER IP ADDRESS” と “SOCKET PORT” は、ポートの追加の “プリンタ名または IP アドレス(A)” と “ポート番号(P)” の設定に使用します。

注意：双方向通信を使用する場合、1台のコンピュータに複数のプリンタドライバを同じ出力ポートに指定しないでください。同じ出力ポートを指定する場合には、[ステータスマニター] を “起動しない” にしてご使用ください。
また、複数のコンピュータで同じプリンタに接続する場合、共有プリンタを指定するか、[ステータスマニター] を “起動しない” にしてご使用ください。

5.1 追加

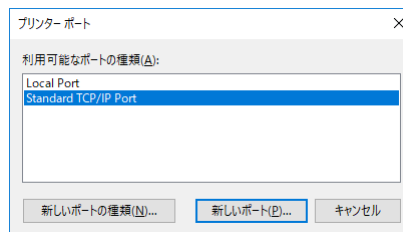
1. プリンタアイコンを右クリックし、[プリンタのプロパティ(P)] をクリックしてプリンタのプロパティを開きます。



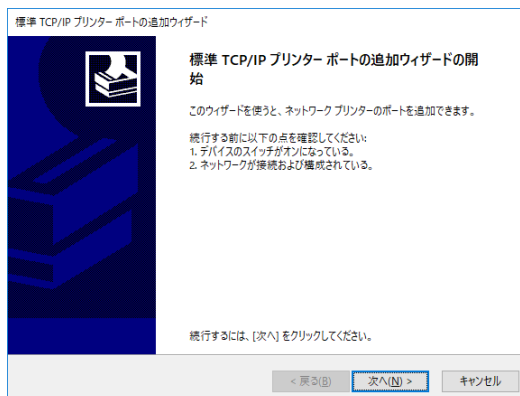
2. [ポート] タブを選択し、[ポートの追加(T)] をクリックします。



3. 利用可能なポートの種類の一覧から “Standard TCP/IP Port” を選択し、[新しいポート(P)] をクリックします。



4. 『標準 TCP/IP プリンタポートの追加ウィザード』起動後、[次へ(N)] をクリックします。



5. 『プリンタ名または IP アドレス(A)』を入力後、[次へ(N)] をクリックします。

補足：『ポート名(P)』は『プリンタ名または IP アドレス(A)』を入力すると自動で設定されます。

標準 TCP/IP プリンター ポートの追加ウィザード

ポートの追加
どのデバイスに対するポートを追加しますか？

希望のデバイスのプリンター名または IP アドレス、およびポート名を入力してください。

プリンター名または IP アドレス(A): xxx.xxx.xxx.xxx

ポート名(P): xxx.xxx.xxx.xxx

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

6. 『デバイスの種類』を [カスタム(C)] に指定後、[設定(E)] をクリックします。

標準 TCP/IP プリンター ポートの追加ウィザード

追加のポート情報が必要で、デバイスを識別できません。

デバイスがネットワーク上に見つかりません。以下の点を確認してください:

1. デバイスがオンになっている。
2. ネットワークが接続されている。
3. デバイスが正しく構成されている。
4. 前のページのアドレスが正確である。

アドレスが間違っていると考えられる場合は、[戻る] をクリックして、前のページに戻り、アドレスを修正し、ネットワークで別の検索を実行してください。アドレスが確実に正確である場合は、次のデバイスの種類を選択してください。

デバイスの種類

標準(S) Generic Network Card

カスタム(C) 設定(E)...

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

7. 『プロトコル』に Raw を選択する場合、ポート番号を入力後、[OK] をクリックします。ポート番号はプリンタの“SOCKET PORT”と同じ値を設定してください。(※1) [SNMP ステータスを有効にする(S)] はチェックしないでください。

『プロトコル』に LPR を選択する場合、任意のキュー名（例えば“lpr”）を入力後、[OK] をクリックします。[LPR バイトカウントを有効にする(B)] および [SNMP ステータスを有効にする(S)] はチェックしないでください。

補足：双方向通信によるステータスマニター機能を使用する場合、Raw を選択してください。

※1 プリンタのポート番号デフォルト値は、基本的には9100です。機種によっては8000の場合があります。

標準 TCP/IP プリンター ポートモニターの構成

ポートの設定

ポート名(P): xxx.xxx.xxx.xxx

プリンター名または IP アドレス(A): xxx.xxx.xxx.xxx

プロトコル

Raw(B) LPR(L)

Raw 設定

ポート番号(P): 8000

LPR 設定

キュー名(Q):

LPR バイトカウントを有効にする(B)

SNMP ステータスを有効にする(S)

コミュニケーション名(C): public

SNMP デバイスインデックス(I): 1

OK キャンセル

8. [次へ] を押し、[完了] をクリックします。

標準 TCP/IP プリンター ポートの追加ウィザードの完了

次の特性でポートが選択されました。

SNMP: いいえ

プロトコル: RAW ポート 8000

デバイス: xxx.xxx.xxx.xxx

ポート名: xxx.xxx.xxx.xxx

アダプターの種類:

このウィザードを完了するには、[完了] をクリックしてください。

< 戻る(B) 完了 キャンセル

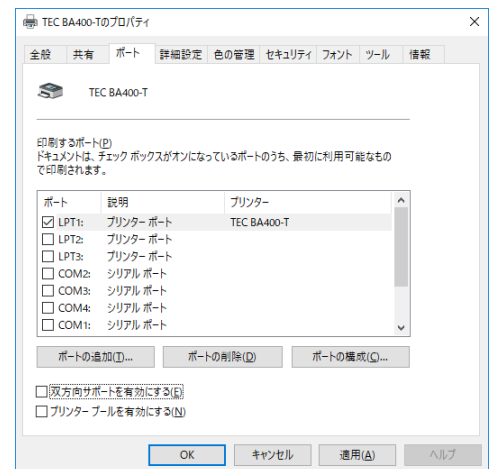
9. [標準 TCP/IP プリンターポートの追加ウィザード] が終了すると、印刷するポートに新しくポートが追加されます。

5.2 削除

1. プリンタアイコンを右クリックし、[プリンタのプロパティ(P)] をクリックしてプリンタのプロパティを開きます。



2. [ポート] タブを選択し、削除するポートを選択し、[ポートの削除] をクリックします。

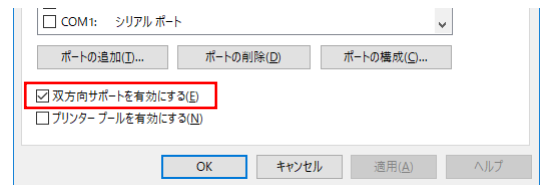


3. ポートの削除が終了すると、印刷するポートから削除されます。

6. 付 録

6.1 双方向通信サポートの設定方法

1. プリンタフォルダから、プリンタのアイコンを右クリックしてプリンタのプロパティを開きます。
2. [ポート] タブを選択します。
3. 双方向通信サポートを有効にする場合は、[双方向サポートを有効にする(E)] にチェックします。無効にする場合はチェックを外します。



Windows 11 / Server2016 / Server2019 / Server2022 対応

B-SA4T-JP, B-SA4G-JP, B-858-R, B-EP2DL-G-JP, B-EP4DL-T-JP, B-EV4-G, B-EV4-T, B-SX8T-JP-R, B-EX4T1-T, B-EX4T3-H, KP-20, B-LV4-G, B-LV4-T, B-LP2D-G, B-EX6T1-T, B-EX6T1-G, BA400-G, BA400-T, B-FP2D-G, BV400-G, BV400-T, BX410-T, BX430-H, BX610-T, BX820-T

プリンタドライバ 操作マニュアル

2026年1月 第63版発行

WBX8Z3137

TOSHIBA

東芝テック株式会社

〒141-8562 東京都品川区大崎1-11-1 ゲートシティ大崎ウエストタワー

最新情報や製品情報は、下記ホームページをご覧ください。

<http://www.toshibatec.co.jp>

©Toshiba Tec Corporation, 2026 無断複写および転載を禁ず